小城市生涯学習推進計画

～人生100年、みんなでつむぐ小城市の未来～

平成30年3月

小城市教育委員会

目　次

１．生涯学習推進計画策定にあたって・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

■　計画策定の目的
■　計画の位置づけ
■　計画の期間

２．生涯学習推進計画の方向性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

■　基本目標
■　基本方針
■　体系図

３．生涯学習を取り巻く状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５

■　生涯学習とは
■　国・県における生涯学習の動向

４．小城市の生涯学習の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８

■　生涯学習に関する市民アンケート調査から
■　前計画の振り返り

５．生涯学習推進の課題と方策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６

【1】　青少年の健全育成
【2】　生涯学習の充実
【3】　歴史の継承、文化・芸術の振興

６．各施策、基本事業の進捗管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９

７．関連資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３０

・小城市スポーツ推進計画（抜粋）
・生涯学習関連施設の概要
・生涯学習市民アンケート結果

１．生涯学習推進計画策定にあたって

■　計画策定の目的

小城市教育委員会では、平成 25 年３月に策定した「生涯学習振興計画」に基づき、生涯学習の推進に努めてきました。

この間、社会情勢は大きく変化し、全国的に少子・高齢社会が進展し、グローバル化や情報通信技術の一層の進展等に伴う経済競争の激化、雇用環境の変容、所得格差の拡大等、先行き不透明な厳しい状況が続いています。

このような社会の変化に対応するためには、地域コミュニティの充実・発展及び自主的活動を支援するための取り組みなどが必要であり、関係機関の連携強化が一層必要となっています。

また、人口減少に伴い、住民同士のつながりが希薄化する中、地域で子どもを育てる仕組みや地域の教育力の向上など、地域課題の解決に向けた取り組みが求められています。

こうした課題を踏まえ、市民の主体的な活動を支え、学習機会の充実、学習環境を整備することで、社会教育・家庭教育の充実を図り、市民の皆さんが生涯にわたって学びつづけることができるよう「小城市生涯学習推進計画」を策定します。

■　計画の位置づけ

本計画は、目指す将来像を「誇郷幸輝（こきょうこうき）」～みんなの笑顔が輝き幸せを感じるふるさと小城市～と定めた「第２次小城市総合計画」及び「城創伝心（じょうそうでんしん）」“小城の歴史と伝統を受け継ぎ、文化を創造する豊かな心を育み後世へ伝える人づくり”を基本目標とする「第２次小城市教育振興基本計画」を上位計画とし、その将来像を実現するために、社会教育を中心とした生涯学習推進の指針となる計画とします。

■　計画の期間

本計画は、平成 30 年度から５年間を計画期間とします。

ただし、社会情勢の変化、市民ニーズの多様化、国・県の動きなどを踏まえながら、必要に応じて計画の見直しを行います。

２．生涯学習推進計画の方向性

■　基本目標

小城市教育委員会は、学校や公民館等の教育機関や、家庭、地域社会と連携を密にして、市民一人ひとりが、共に支えあい学びあう健全な社会の構成員として、郷土の歴史と伝統を受け継ぎ、豊かな人間性を培い、生涯にわたって自ら学ぶ意欲を養うなどの「生きる力」を育み、国際的視野に立ち郷土や国家を担う責任を自覚し、文化の創造と社会の発展に貢献できるよう、心身ともにたくましい人間力を身につけた市民の育成に努めます。

本計画の基本目標を「人生 100 年、みんなでつむぐ小城市の未来」と定め、計画的かつ効果的に推進を図ります。

また、計画の推進にあたっては、社会情勢の変化、住民ニーズの多様化などを踏まえ、必要に応じて見直しながら推進します。

【基本目標】

人生 100 年、みんなでつむぐ小城市の未来

この子達の未来へ！！

津の里ミュージアム

■　基本方針

市民が、生涯にわたって心豊かに生きていくため、自発的な課題意識をもち、主体的な学習活動やスポーツ活動を通じ、互いに認め合い、自己実現を図るとともに、地域社会への誇りを持ちながら、共に支えあい、高めあい、積極的に地域社会づくりに参画することができる生涯学習のまちづくりを体系的に推進していきます。

そのため、第２次小城市教育振興基本計画に従い、「青少年の健全育成」、「生涯学習の充実」、「生涯スポーツの充実」、「歴史の継承、文化・芸術の振興」の４つを基本方針と定めます。

【基本方針】

○青少年の健全育成

○生涯学習の充実

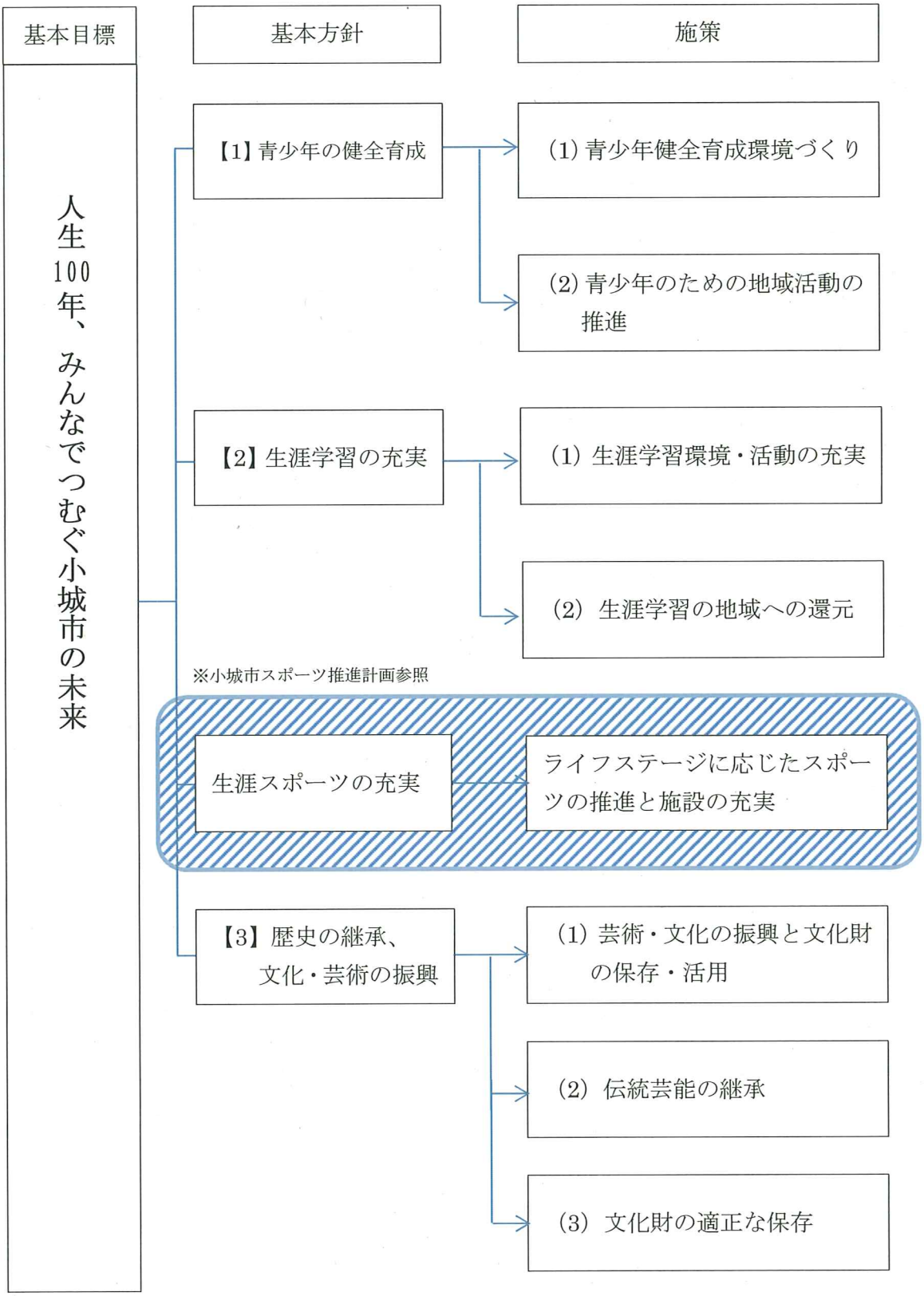
○生涯スポーツの充実

○歴史の継承、文化・芸術の振興

自分自身を磨いて

ふれあい芸能まつり

■　体系図

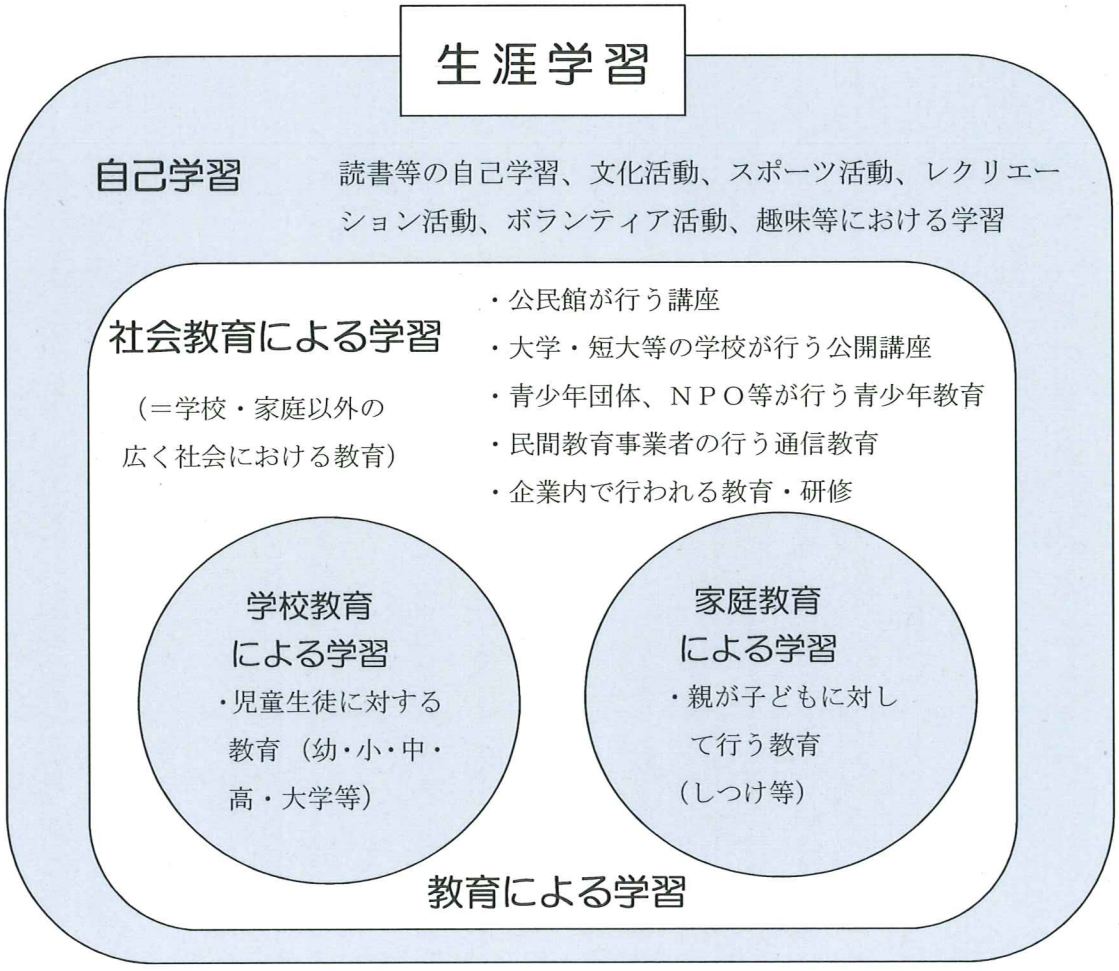

基本目標
基本方針
施策
人生100年、みんなでつむぐ小城市の未来
【1】青少年の健全育成
(1) 青少年健全育成環境づくり
(2) 青少年のための地域活動の推進
【2】生涯学習の充実
(1) 生涯学習環境・活動の充実
(2) 生涯学習の地域への還元
※小城市スポーツ推進計画参照
生涯スポーツの充実
ライフステージに応じたスポーツの推進と施設の充実
【3】歴史の継承、文化・芸術の振興
(1) 芸術・文化の振興と文化財の保存・活用
(2) 伝統芸能の継承
(3) 文化財の適正な保存

３．生涯学習を取り巻く状況

■ 生涯学習とは

生涯学習とは、生涯を通じて行うあらゆる学習活動のことです。例えば、学校教育、家庭教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味など様々な場所や機会において何かを学び得ることも生涯学習に含まれます。

また、「生涯学習社会」とは、「人々が、生涯のいつでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価される」（平成４年生涯学習審議会答申）のような社会であるとされています。



■ 国・県における生涯学習の動向

国の第３期教育振興基本計画策定において「生涯学び、活躍できる環境の整備」を基本的な方針とし、「人生 100 年の時代を見据えた生涯学習の推進」が示されるなど、社会教育推進の基本的考え方として、地域における学習を活力あるコミュニティ形成・絆づくりに積極的に貢献できるものとすることや、社会教育行政が地域の多様な主体と、より積極的に連携・協働して取り組みを進めていく「社会教育行政の再構築」を実施するための環境整備を図ることが明記され、様々な主体と連携・協働した地域創生・地域課題解決の推進のための取り組みがなされるよう、より具体的な社会教育制度の在り方等について検討を進められています。

また、地域と学校が連携協働し、幅広い地域住民や保護者等の参画により地域全体で子どもたちの成長を支え、地域を創生する「地域学校協働活動」を推進するため、社会教育法が平成 29 年度に改正されました。

また、地域社会の抱える課題が多様化・複雑化していることに鑑み、地域課題解決の担い手を育てるため、官民を問わず展開される社会教育を振興されています。

そのほか、教育の原点である家庭教育を支援する取り組みにおいては、家庭や地域のつながりを作るとともに、教育分野と保育福祉分野の取り組みの連携・協力により、親子の育ちを一層支援していくことが必要と考えられています。さらに、青少年を取り巻く環境が急速に変化している現状を踏まえ、青少年の健全な育成のための取り組みを推進されています。

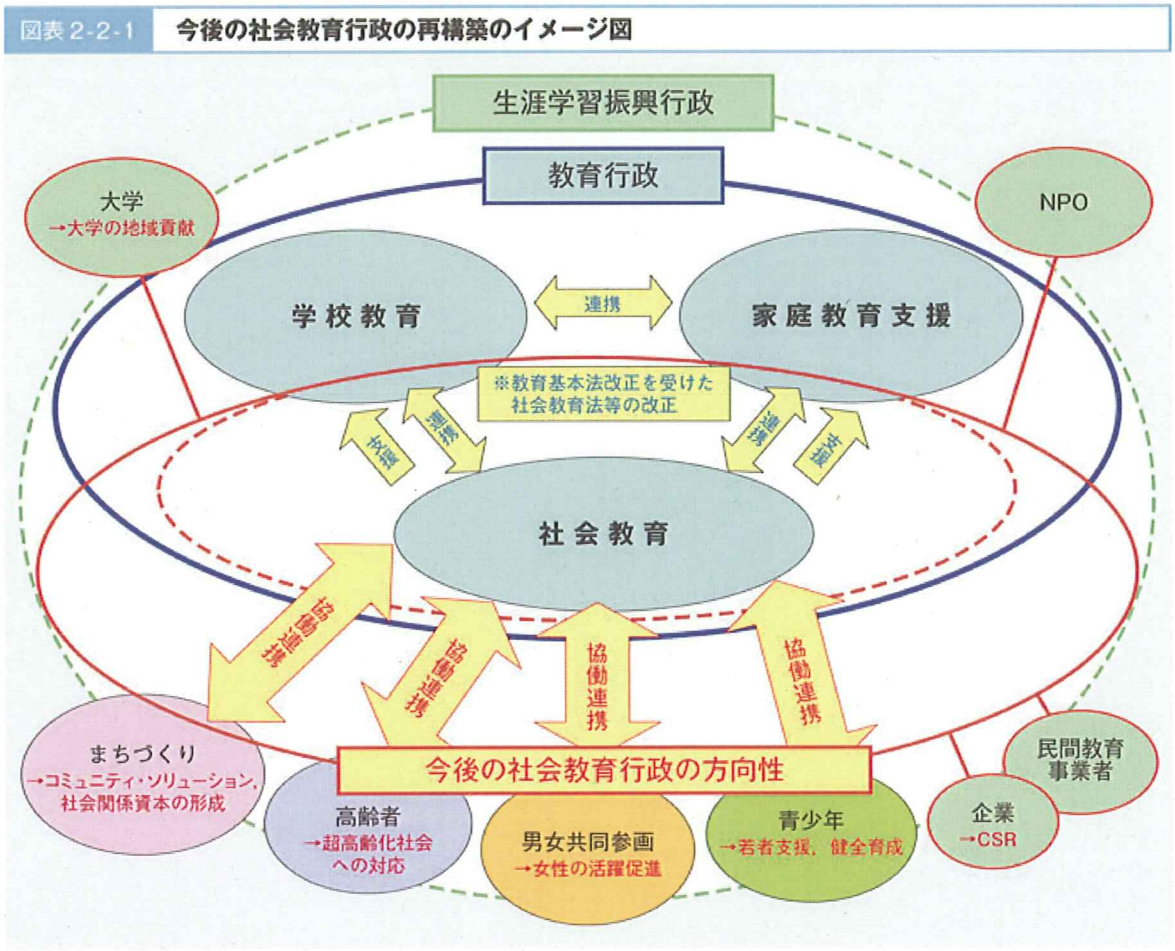
佐賀県では、将来（10 年後）の姿を見据え、その実現に必要な４年間の方策を明らかにするものとして、『－佐賀県総合計画 2015－　人を大切に、世界に誇れる佐賀づくりプラン』を平成 27 年度に策定され、生涯学習については、「まなびたい人が誰でも、いつでも、どこでも、個人の要望や社会の要請に応じてまなぶことができ、その成果を活かすことができている」という姿を目指す将来像として掲げられています。

そこで、様々な学習機会を充実し、継続的なまなびの機会を増やすとともに、身近な地域でのまなびの成果を生かした活動を推進する事業を展開されています。

また、平成24年度から、教育委員会が行ってきた生涯学習や社会教育に係る事務を知事部局である文化・スポーツ部において行っており、幅広い行政分野を担い、より県民との接点を有する知事部局で一元的に行うことによるメリットを生かし

ながら、事業の展開によっては、県教育委員会との密接な連携を図って事業の展開を行うこととしています。

【これからの社会教育行政に関する関係図】
（出典：文部科学省ホームページ　（http://www.mext.go.jp/））



4．小城市の生涯学習の現状

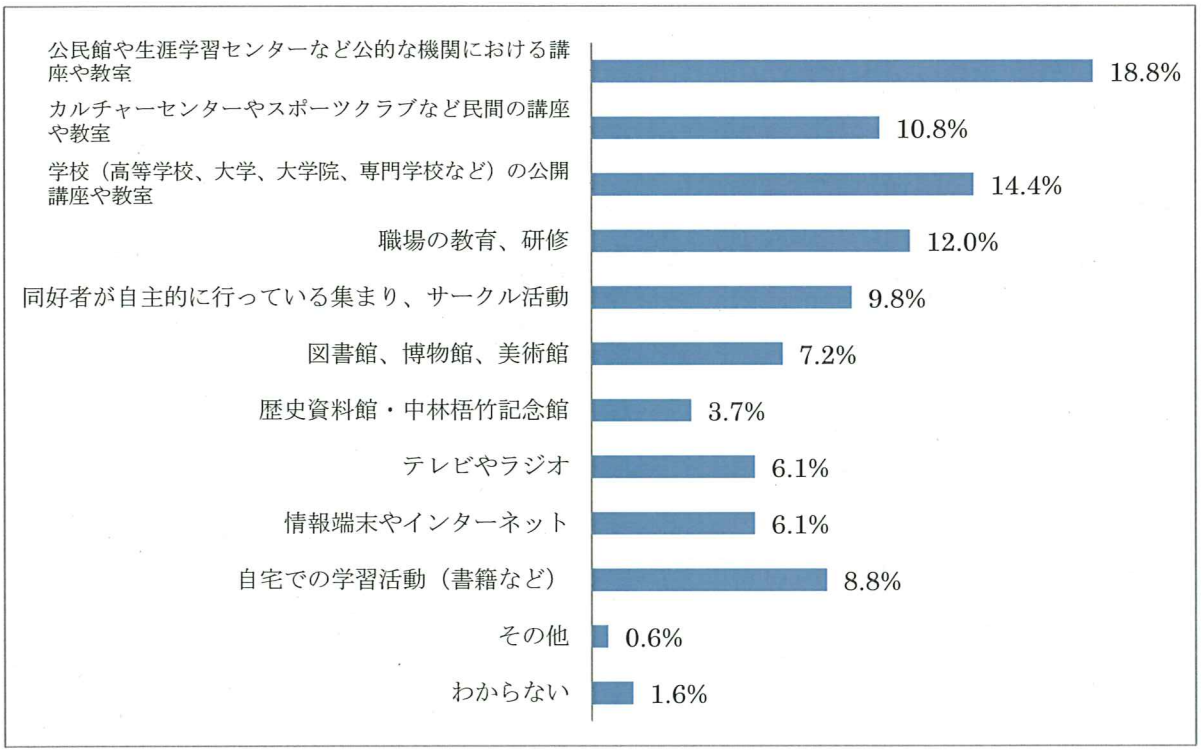
■ 生涯学習に関する市民アンケート調査から（抜粋）

［平成 28 年度実施：対象者小城市在住の 16 歳以上の男女 2000 人
：回答者数 550 人（27.5%）］

【生涯学習の形態】

問．あなたは、どのような場所や形態で「生涯学習」をしたことがありますか。

（複数回答可）



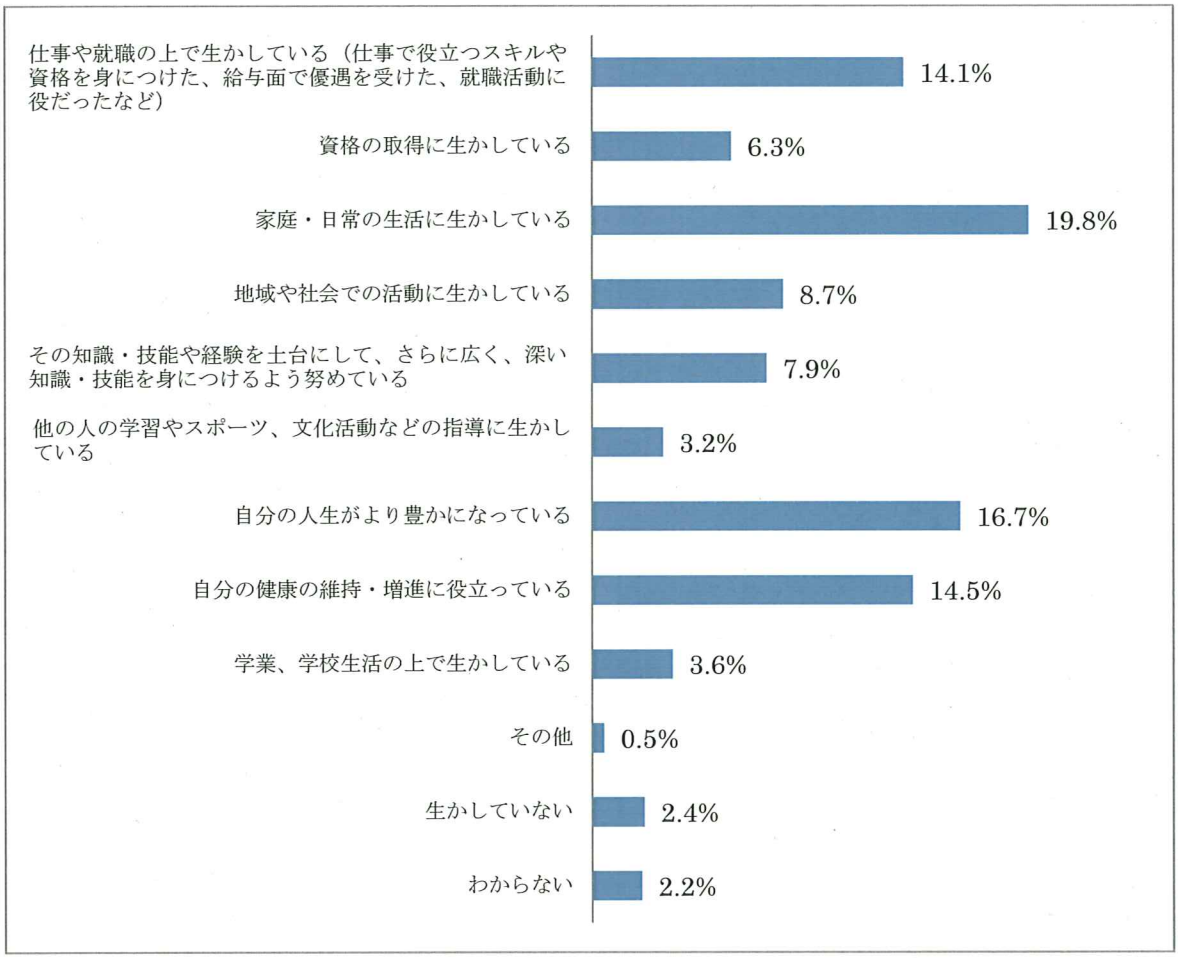
場所や形態としては、「公民館や生涯学習センターなど公的な機関における講座や教室」が最も多く、次に「学校（高等学校、大学、大学院、専門学校など）の公開講座や教室」、３番目に「職場の教育、研修」となっています。

平成 24 年度実施のアンケートに比べ、公的な機関における講座や学校での参加が多くなっており、生涯学習講座に対する関心が高くなっていることがうかがえます。

また、活動場所としては、市内が 64.9%となっており、30 代を除きすべての世代が市内での活動が多くなっています。市外での活動場所としては、佐賀市が最も多くなっています。

【生涯学習の知識・技能、経験の生かし方】

問．あなたは、「生涯学習」を通じて身につけた知識・技能や経験を、どのように生かしていますか。（複数回答可）



身につけた知識・技能や経験をどのように生かしているかについては、「家庭・日常の生活に生かしている」が最も多く、次に「自分の人生がより豊かになっている」、３番目に「自分の健康の維持・増進に役立っている」となっています。

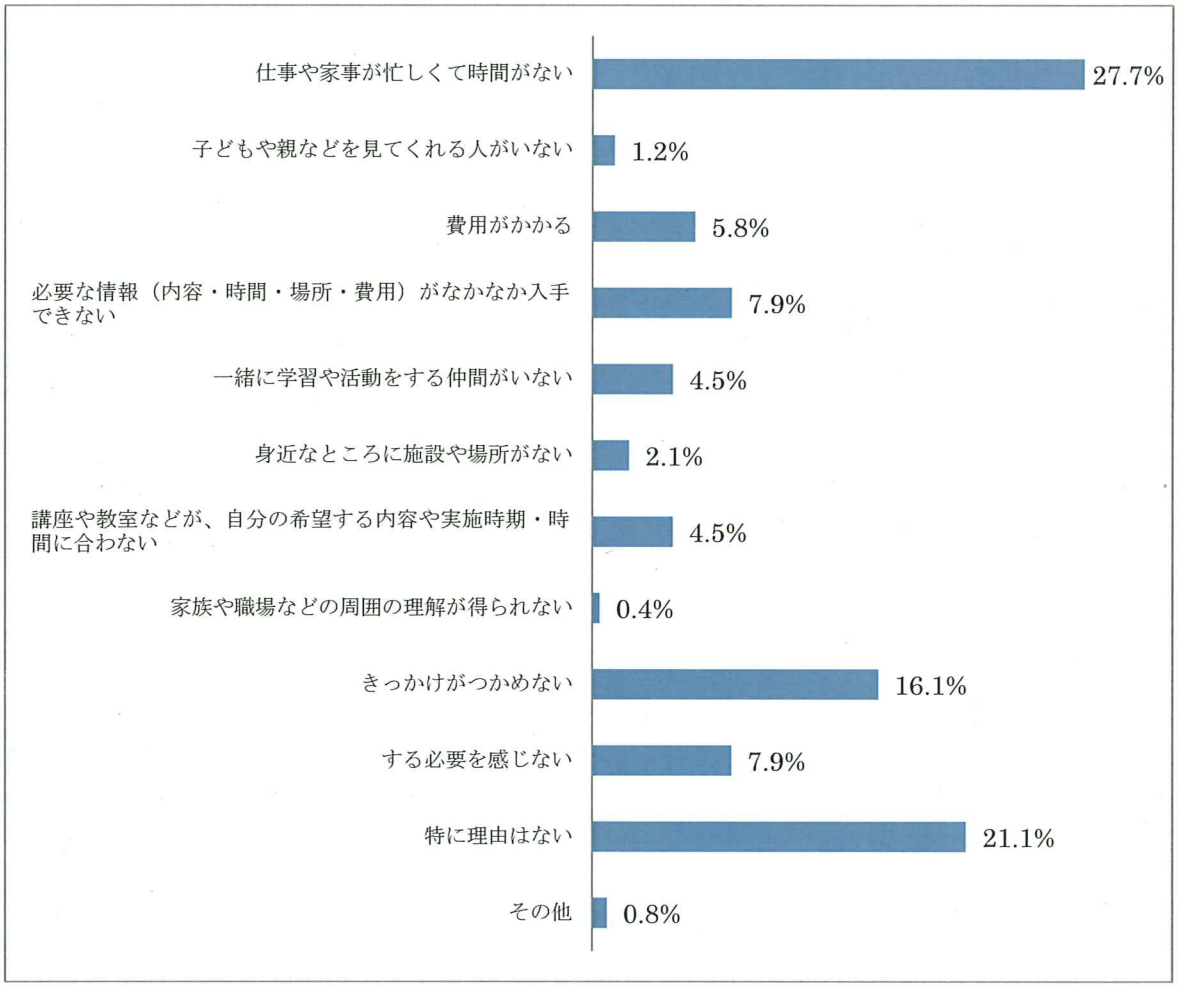
平成 24 年度実施のアンケートと同じ傾向にあり、身につけた知識や技能は、身近な生活で生かしていることがうかがえます。

年代別においては、20 代から 40 代では、身につけた知識等を仕事や就職に生かしており、50 代、60 代では、家庭や日常生活に生かしていると回答している方が多くなっています。

また、小城市では協働によるまちづくりを目指していますが、「地域や社会での活動に生かしている」は 10%もない状況であり、今後の課題の一つです。さらに「他の人の学習やスポーツ、文化活動などの指導に生かしている」と回答した方は 3.2%となっており、身につけた知識や技能を生かす場づくりや指導者として活躍できるしくみが必要とうかがえます。

【生涯学習を行っていない理由】

問.「生涯学習」をしていない理由は何ですか。（複数回答可）



「生涯学習」をしていない理由としては、「仕事や家事が忙しくて時間がない」が最も多く、次に「特に理由はない」、３番目に「きっかけがつかめない」となっています。

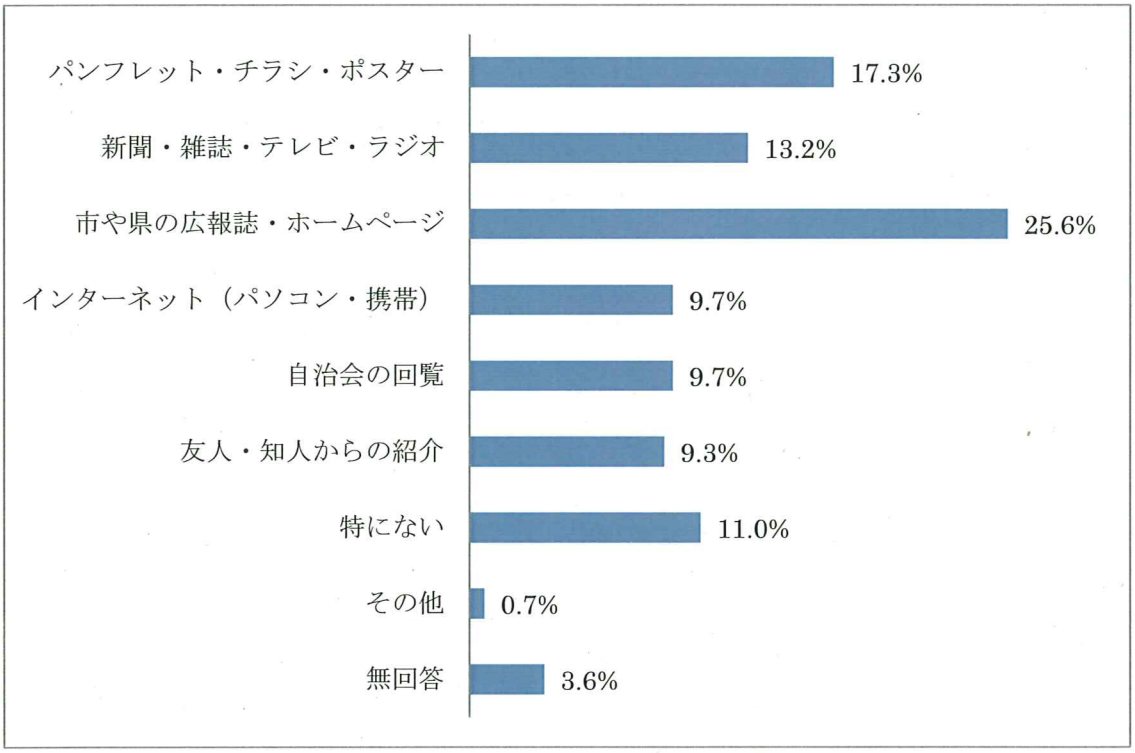
平成 24 年度実施のアンケートと同じ傾向にありますが、「特に理由はない」が 14.7%から 21.1%、「する必要を感じない」が 5.1%から 7.9%と多くなっており、講座や情報発信の充実を図り、生涯学習をおこなうきっかけづくりなど、無関心層への働きかけが必要とうかがえます。

また、年代別においては、60 代以上の方に「特に理由はない」との回答が多くみられ、生きがいを持って自立した生活ができることが求められる高齢者福祉の観点からも、大きな課題と言えます。

【生涯学習に関する情報の収集】

問．あなたは、「生涯学習」に関する情報を、どのように得ていますか。

（複数回答可）



「生涯学習」に関する情報の入手方法については、「市や県の広報誌・ホームページ」が最も多く、次に「パンフレット・チラシ・ポスター」、３番目に「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」となっています。

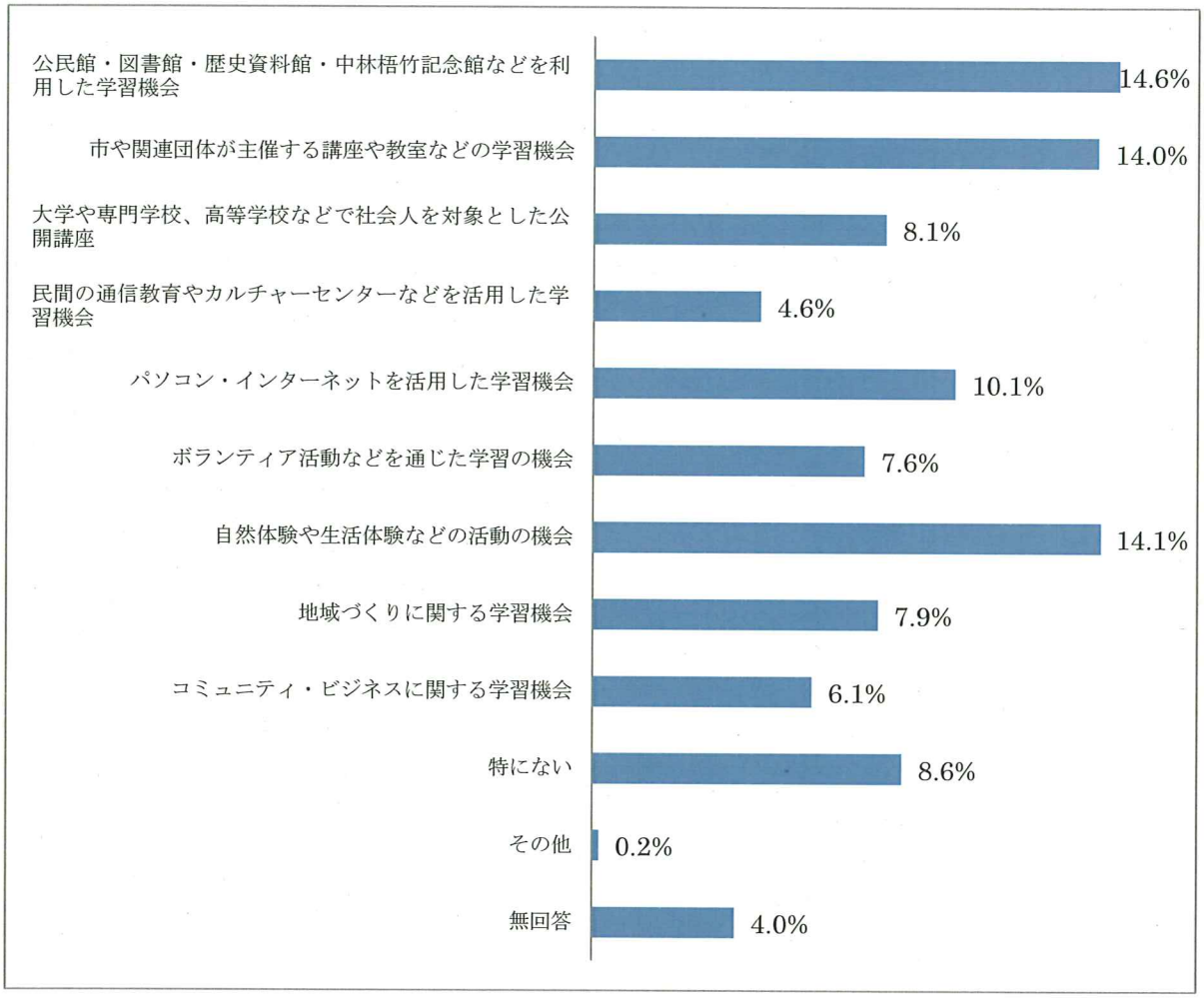
平成 24 年度実施のアンケートと同じ傾向にあり、今後も他部局との連携も含め多様な手段で情報発信をおこなうとともに、情報化社会のなか、特にインターネット（パソコン・スマートフォン等）を利用した情報発信を行っていくことが必要と思われます。

年代別においては、10 代、20 代の回答で「特にない」がもっとも多く、若い世代へ向けた情報発信が必要であることがうかがえます。

【学習機会の提供】

問. あなたは、今後、どのような「生涯学習」の機会が増えればよいと思いますか。

（複数回答可）



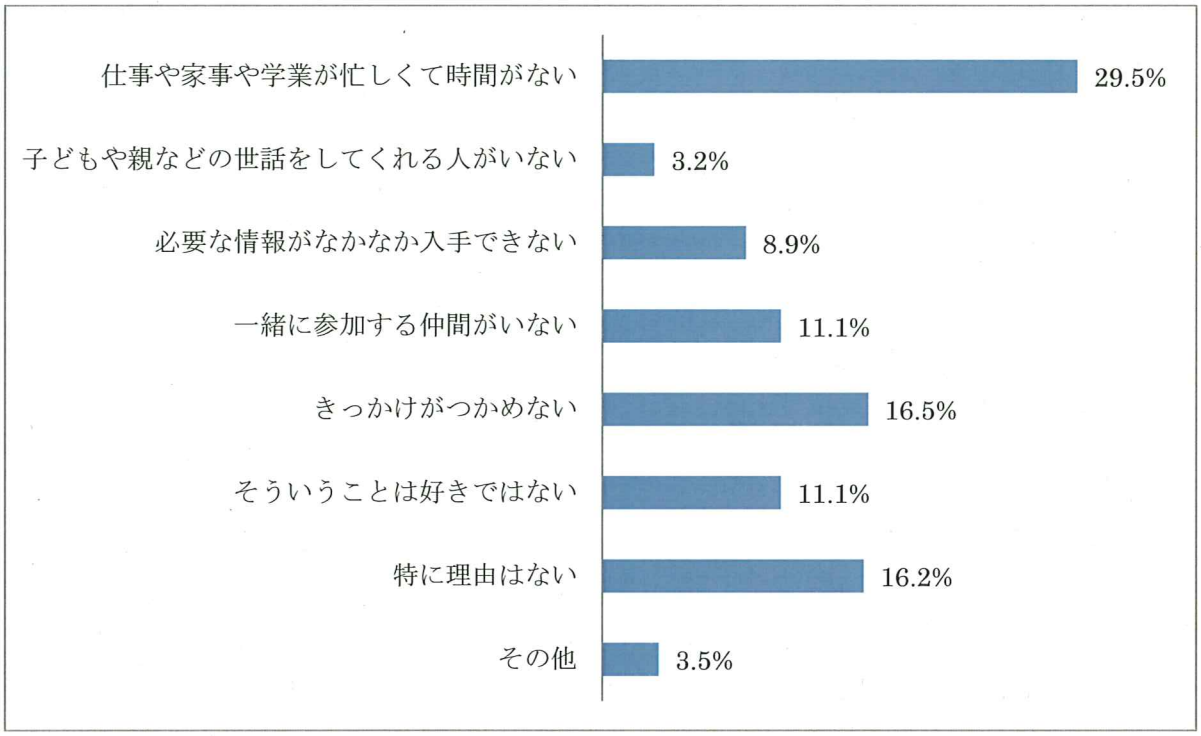
今後の「生涯学習」の機会については、「公民館・図書館・歴史資料館・中林梧竹記念館などを利用した学習機会」が最も多く、次に「自然体験や生活体験などの活動の機会」、３番目に「市や関連団体が主催する講座や教室などの学習機会」となっています。

平成 24 年度実施のアンケートと同じ傾向にあり、民間の通信教育やカルチャーセンター等を活用した学習よりも、行政や関連団体が主催する講座や教室が求められていることがうかがえます。

小城市が求める協働によるまちづくりを目指すため必要と考えられる、「地域づくりに関する学習機会」は、ここでも 7.9%と低くなっています。

【地域行事への参加状況】

問．あなたが地域の行事や活動に参加していない理由は何ですか。（複数回答可）



地域の行事や活動に参加していない理由としては、「仕事や家事や学業が忙しくて時間がない」が最も多く、次に「きっかけがつかめない」、３番目に「特に理由はない」となっています。

その他記述では、「高齢のため」「体が不自由で出来ない」との意見が多く、年齢的、身体的に参加が難しい状況が認められます。

参加を促すためには、行政や地域のネットワーク等が連携して、きっかけづくりを行うことが必要であると思われます。

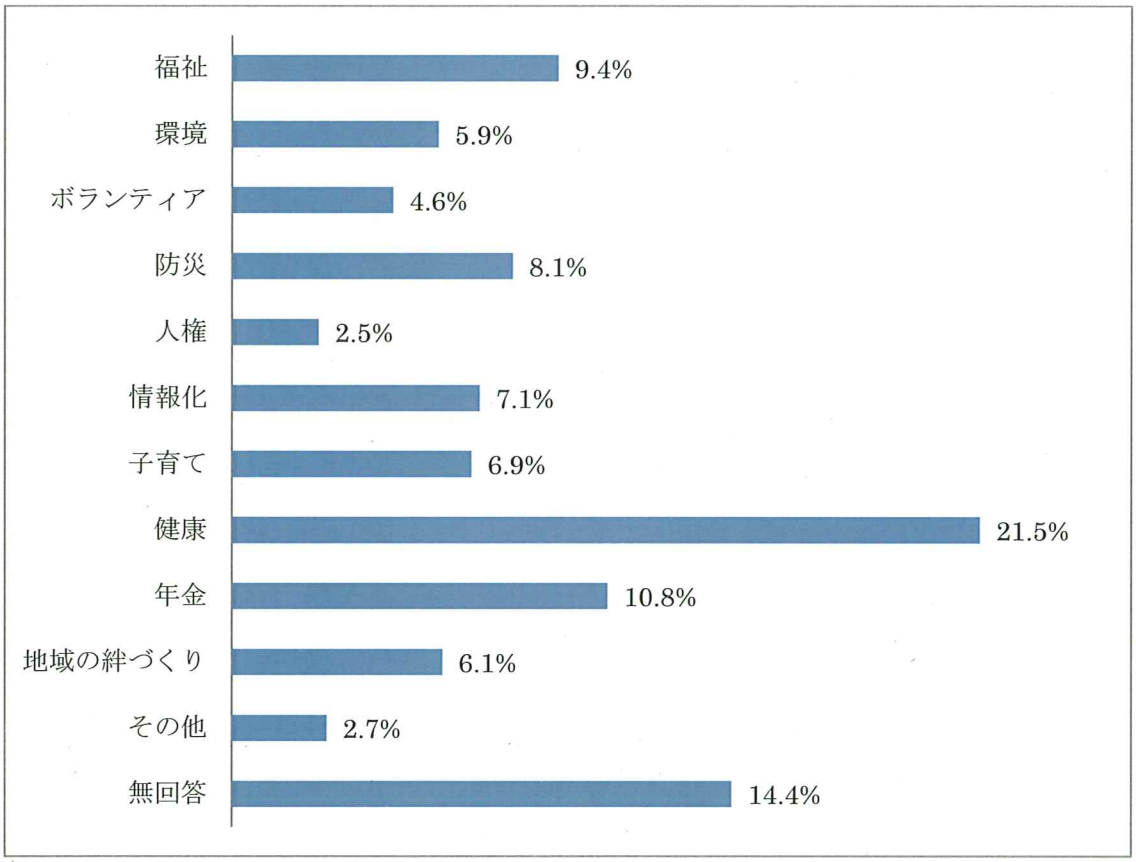
地域の人達に支えられ

活動を続けています

お火たき

【これから学びたい学習講座】

問．あなたが、学んでみたい講座は、どのような講座ですか。（複数回答可）



学んでみたい講座については、「健康」が最も多く、次に「年金」、３番目に「福祉」となっています。平成 24 年度実施のアンケートでは「健康」「福祉」「環境」の分野が多かったことに比べ、今回「年金」への関心が高まったことがうかがえます。

また、その他記述では、「医療事務関係」や「英会話」の意見が多くみられましたが、「地域の絆づくり」「ボランティア」は、低くなっています。

年代別においては、10 代は「情報化」、20 代・30 代は「子育て」、40 代からは「健康」が高くなっており、年代により学びたいものが違うことがうかがえ、それぞれターゲットを絞った講座の開催が必要と思われます。

■ 前計画の振り返り

小城市教育委員会では、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条の規定に基づき、毎年度事業の点検評価を実施し、事業の見直しを行ってきています。

前計画の基本方針は「豊かな生涯学習の推進とスポーツの充実」「多彩な文化の振興と伝統文化の継承」とし、3 つの施策をたて基本目標実現のため取り組んできました。

1 つ目の施策「青少年の健全育成」では、各地区の青少年健全育成会が放課後子ども教室を実施するなど、子どもの居場所づくりが地域ぐるみで行われ、また安全安心な環境づくりも市民主体で構築維持されています。一方、個々の家庭教育の問題についての取り組みについては、十分に実施できたとは言えない状況があります。

2 つ目の施策「生涯学習の充実」では、社会教育委員から毎年提言を頂き、また毎年 1 人は職員に、社会教育主事の資格を取得させるなど、生涯学習を支援する体制の構築を図ってきました。しかし、社会教育団体の自立に向けた活性化については、課題として残っています。

3 つ目の施策「芸術・文化の振興と文化財の保存活用」では、文化連盟の活発な活動や、高度な芸術・文化を鑑賞する機会、また、歴史資料の展示会の開催などの事業に取り組み、文化を通じた活性化を図ってきました。

５．生涯学習推進の課題と方策

【1】　青少年の健全育成

(1)　青少年健全育成環境づくり

【現状と課題】

①学校・家庭・地域の連携・協働

社会の変化により、子どもたちを取り巻く環境には厳しい現状があり、学校には多くのことが求められるようになってきました。

子どもたちの社会性・自主性、創造性等の豊かな人間を涵養するためには、学校・家庭・地域が連携する仕組みを構築し、社会全体で子どもたちを育むことが大切で、学びの拠点である学校、公民館等が連携・協働し、相互の交流を図り、地域と保護者との協力関係を強化することにより、地域住民の生涯学習の成果が学校や子どもたちの活動への支援に生かされるよう進める必要があります。

そのような中、先生たちの多忙さを少しでも緩和できるよう、部活動の指導者を校外に求めるなど地域で取り組む必要性も求められています。

②家庭・地域の教育力

近年、社会環境の大きな変化の中で、子どもが集団で遊ぶという機会が減ってきており、集団行動を通じた学びや経験を得る機会が少なくなってきています。それに伴い子どものコミュニケーション能力や規範意識等の低下が懸念されており、自己肯定感を高めるような取り組みが求められています。

また、携帯電話やインターネットが普及している現代社会において、ＳＮＳなどのインターネット上でのコミュニケーションが、若者を中心に増えてきています。

小城市においても小中学生で、平日２時間以上の携帯・スマートフォン等の使用時間がみられ、その反面読書時間を全く持たないなどの問題が発生してきています。

さらに、長時間のインターネット利用による生活習慣の乱れや、集中力の低下等の問題、スマートフォンなどによる〝ネットトラブル〟や〝ネット依存症〟の心配、また、家庭学習時間が少ないなどの問題にも対応する必要があります。

【課題解決に向けた取り組み】

①学校・家庭・地域の連携・協働

子どもたちの社会性・自主性・創造性の豊かな人間を育むために、学校・家庭・地域が連携する仕組みづくりを考えていきます。

そのなかで地域住民が、子どもたちからエネルギーをもらい、喜びや新たな生きがいを感じ、学びへの意欲を生み出すといった環境が生まれてくるよう、学校・家庭・地域が連携して、子どもの教育活動を支援する仕組みづくりを推進していきます。

②家庭・地域の教育力

幼少期から人権教育や様々な体験や学びを通じて社会性を身に付け、多様化する社会生活に適応できうる成人を育てるための機会や取り組みを充実させる必要があり、社会教育関係団体等との連携・協働を深め、子どもの安心・安全な環境づくりに努めます。特に、子どもたちのスマートフォンやインターネットの利用に関して、家庭でのルールづくりに向けた取り組みを行っていきます。

地域の事を地域の人に教わります

座学

(2)　青少年のための地域活動の推進

【現状と課題】

①家庭教育支援

平成29年の家庭学習状況調査において、家庭学習が１時間以上の割合は、小学校５年生59.7%（県60.4%）、６年生63.5%（県62.5%）、中学校１年生61.6%（県59.1%）、２年生57%（県63%）、３年生59%（県65.5%）となっており、学年によっては、佐賀県の平均を下回っています。

また、共働き世帯の増加や少子化が進行する中、親が安心して子育てができるように、悩みを言える関係の構築や子育ての方法を学ぶ機会を提供する必要があります。

また、家族が共に過ごす時間は、コミュニケーションを取りながら互いに学びあい、共に成長できる大切な時間です。子どもの健やかな成長のために家庭教育支援を充実させる必要があります。

②子どもの居場所づくり

全国的に少子高齢化が進む中、小城市においても祖父母世代との同居が少なくなるなど、核家族等の増加に伴い、放課後児童クラブへの入級者が年々増加するなど、放課後等の居場所づくりの確保が急務となっています。

地域においては、人口の流出入に伴い、地縁的なつながりや共通の価値観が希薄となり地域コミュニティの衰退が心配されます。

③子どもの体験活動

「子どもの頃、家族の愛情・絆を基盤に、遊びに熱中するなど様々な体験をした人ほど、自己肯定感が高く、へこたれない大人になる。」という国の調査結果が示すように、体験活動は、豊かな人間性や自ら学び、自ら考える力などの生きる力の基盤として、子どもの成長の過程において、大きな役割が期待されています。

しかし、少子化や情報機器・ゲーム機、インターネットなどのマルチメディアの普及に伴い、実際に実物と関わり合う機会の減少、異年齢者との交流や集団行動の機会の減少などにより、コミュニケーション能力や協調性、規律心の低下が心配されています。

【課題解決に向けた取り組み】

①家庭教育支援

子どもたちの健全な成長のためには、しつけや規範意識の育成、生活リズムの向上等、家庭教育の重要性などについて、保護者に啓発し、理解を促していくことや、学校と地域が連携して家庭教育を支えることが必要になると考えられます。

このことから、学校や地域を含めて、多様な機関が家庭教育の支援に取り組んでいけるような仕組みづくりを目指します。

②子どもの居場所づくり

家庭・学校以外において、子どもが安心して安全に過ごすことができる「居場所」づくりの環境整備に努めます。

具体的には、夏休みなどの長期休暇中における社会教育施設等の開放など、今ある資源を活用し、居場所づくりに取り組んでいきます。

また、放課後子ども教室等の事業をとおして、子どもたちと地域の方が交流できるよう取り組んでいきます。

③子どもの体験活動

子どもたちに「生きる力」をはぐくむためには、自然や社会の現実に触れる実際の体験が必要と考えられます。

そのため、地域・大学・高校・NPO・企業などと連携・協力しながら、生活体験や自然体験などの体験活動の機会を拡充していきます。

また各種団体が行う体験活動等やリーダーを育成する事業などについても支援していきます。

【2】　生涯学習の充実

(1)　生涯学習環境・活動の充実

【現状と課題】

①学習の機会づくり

社会教育施設（公民館、図書館、歴史資料館）また児童センターや健康福祉センターなど行政の機関だけでなく、民間の施設も活用した、教室・講座を初めとする多彩な事業が実施されるとともに、地域住民自らの学習要求に基づくサークル活動が活発に展開されています。その活動や事業は、参加者同士の交流や学びから、地域住民の居場所や生きがいの発見につながっています。

しかし、参加者の固定化や、内容の重複、現役世代が参加しにくいなどの問題があり、地域住民の学習ニーズを把握し、ライフスタイルに合った開催時間の考慮など、さらに工夫した講座の提供が必要です。

さらに、地域課題の解決に向け、地域住民自身が自ら主体となって、地域づくりに参画し、地域の人々の思いや願いを自由に語り合い、学び合うことでますます学びを深め、生きがいをつくる機会と場の提供が必要と考えられます。

そのほか、少子化問題、高齢化社会、消費者教育、子どもの貧困問題や人権教育など、社会を取り巻く状況に対応した学習機会の提供が求められています。

②人材育成

高齢化、核家族化、価値観の多様化、地域の連帯感の希薄化等により社会状況が大きく変化する中で、様々な学習課題が生じています。小城市においてもここ数年多くのアパート（借家）が建てられており、住民同士のコミュニケーションの在り方が課題となってきています。

知識や教養を身に付けたり、地域の人たちと交流を深めることで、より豊かな人生を送ることができるよう、学習活動や文化芸術活動、地域の多様な課題解決のための学びが求められています。

また、高齢化が進む中で、第二の人生をより豊かに過ごすための生涯学習活動が求められており、元気で楽しく年齢を重ねていくために、地域の人たちと交流し、生きがいを見つけながら、さらに、今までに培った豊富な知識や経験を、社会や地域に還元していけるような学びが必要とされています。

③情報発信の充実

公民館において開催される講座や教室は、市報や市ホームページをとおして、広く市民に発信しており、アンケートの結果でも、生涯学習に関する情報の入手方法として、市や県の広報誌・ホームページがもっとも多くなっています。

しかしながら、公民館講座の新たな参加者が増えない状況からは、生涯学習の講座等に関する情報や取り組みが、十分市民に浸透していると言える状況ではありません。

特に、若い世代へ向けた情報発信が必要であり、情報化社会のなか、多様な手段で情報発信を行う必要があると考えられます。

④図書館の活性化

図書館は、生涯学習支援の情報提供の拠点として、情報を収集・保存・提供し、市民一人ひとりの教養・調査研究・仕事・趣味等に資することを目的としています。

小城市では２館（三日月館・小城館）、２分室（牛津分室・芦刈分室）、自動車図書館本丸くん体制で市内全域に図書館サービスを行っています。また、学校図書館とは、団体貸出や出張お話し会など連携・支援を行っています。

しかし、全国的に読書離れが指摘され、図書館の貸出冊数が低迷するなか、市民図書館も貸出冊数が減少傾向にあります。

こうしたなか、生涯学習の拠点として、新たなサービスの充実が求められています。このような状況を受け、平成 27 年度には『第二次小城市子どもの読書活動推進計画』を策定し、現在この計画をもとに図書館サービスを行っています。

【課題解決に向けた取り組み】

①学習の機会づくり

地域住民の学習ニーズは社会の変化に応じて多様化しており、そのニーズに適切にこたえるためには、行政だけでなく、民間との連携も必要になると考えられます。

また、アンケートの結果では、年代別にニーズが異なっており、ターゲットに合わせた学習機会の提供を図っていきます。

さらに、社会の変化に対応した学習機会を提供していくために、併せて、必要なテーマの講座の提供を常に探るとともに、だれでも学べる学習機会の充実に努めて

いきます。

②人材育成

小城市内の２つの高校及び新たに設置される大学との連携を図りながら、地域での人材育成を推進します。

また、企業などの多様な主体との連携を模索し、官民での社会教育の推進を図り、人材育成を目指します。

③情報発信の充実

生涯学習の情報の入手手段としてもっとも多くなっている市報、ホームページについては、内容の充実を図りながら継続していきます。

また、他部局との連携も含め、さまざまな生涯学習に関する情報を、届けたい人に届けることができるよう、有効なチラシの作成、SNS などの利用や、人が人に伝える口コミなど、さらに効果的な情報提供の方法を検討していきます。

④図書館の活性化

第二次小城市こどもの読書活動推進計画では『読書をとおした豊かな感性と広い教養の育成を行う環境づくり』を目指しています。この方針の達成のために家庭・地域・学校における読書活動の推進、民間団体への支援、普及啓発活動を進めていきます。

具体的にはブックスタート等読み聞かせの開催、本丸くんの巡回、おはなしボランティアグループの研修、学校図書館への相互貸借、「子どもの読書の日」を中心としたイベントの開催などを行い、読書活動の推進に取り組みます。

また、あらゆる利用者のニーズに答えるよう様々な資料の提供に努め、特に小城市に関する資料を積極的に収集し、地域課題解決に向けた学習ができるような情報提供を行っていきます。

さらに、本を読みながら館内でゆっくりくつろげるような雰囲気づくりにも努めていきます。

(2)　生涯学習の地域への還元

【現状と課題】

①地域づくりへの取り組み

公民館を拠点とした新たなまちづくりのモデル活動が始まるなか、地域のリーダーとして市民活動に取り組む人を発掘することも必要となります。より多くの市民がそれぞれの仕事や趣味などで培った力を、地域において発揮できる場を提供し、市民活動に参画できるきっかけづくりに取り組む必要があります。

②地域課題への取り組み

公民館は、地域住民にとって身近な学びの場であると同時に、地域の人と人をつなぐ交流の場として親しまれています。また、まちづくりの拠点としての役割も求められています。

今後、地域住民が地域の現状を共通認識し、地域課題の解決に向け、知恵を出し合う場・機会を設けることが必要となります。

③地域行事への参加

地域行事に積極的に参画することは、地域を愛する心がより深まるとともに、社会性や企画力を身につけ、また、行事の伝承者としての役割を担うことになります。

ところが、人口の流出入に伴う地縁的なつながりが希薄となり、地域行事への参加が減少しています。特に、若者層の参加が減少し、地域行事の開催自体が困難になっている地域もあります。

こうした状況にあって、地域住民に行事の伝承の大切さを意識してもらうために、積極的参画を促し、その大切な役割を担っているということを自覚してもらい、喜びを感じてもらえるような仕組みづくりが課題となっています。

【課題解決に向けた取り組み】

①地域づくりへの取り組み

地域の社会活動を担ってきた婦人会や育成会などの社会教育関係団体の活動を支援するとともに、団体の組織強化や自立に向けた取り組みなどの支援を行っていきます。

また、地域課題の解決に取り組むNPO団体等との連携や、地域におけるリーダー的役割を担う人材の発掘と育成に取り組んでいきます。

②地域課題への取り組み

人材の登録制度を構築するなどにより、身につけた知識や経験を、地域の課題解決や、地域文化の向上、企業・学校などとの連携・協働に結びつくような仕組みづくりを目指します。

また、他行政機関と連携し、地域課題の解決に向けた取り組みを行う地域への支援や、課題解決の方法を学ぶ講座の充実を図っていきます。

③地域行事への参加

地域行事は、人から人へ受け継がれてきたものが多く、また、その地域特有の行事でもあります。

地域行事への参加は、高齢者から子どもまで異なる世代のつながりや異年齢間の交流が生まれ、地域の結びつきが強くなります。

この多世代交流を通じた地域の絆づくりができるよう、地域の祭りや行事等への参加を促す仕組みづくりを目指します。

特に、子育て世代に継続的な地域活動への参加を促していく取り組みを図っていきます。

【3】　歴史の継承、文化・芸術の振興

(1)　芸術・文化の振興と文化財の保存・活用

【現状と課題】

①芸術・文化活動の充実

芸術・文化活動は人生を豊かにし、彩を与えてくれる存在です。小城市には、文化連盟を中心とする芸術・文化団体が多数あり、幅広い分野にわたる芸術・文化活動が小城文化センター、牛津会館、牛津赤れんが館や公民館・支館、ゆめぷらっと小城などで活発に行われています。特に子ども達の文化活動や発表の場が少なく、これからは子ども達の文化活動や発表の場を創出する必要があります。

②歴史・文化の継承

小城市は旧石器時代から現代に至るまでの長い歴史があり、特に中世の肥前千葉氏や江戸時代の小城鍋島氏（小城藩）の時代には政治・文化・経済が栄えました。

また、書聖中林梧竹など多くの偉人を輩出しています。小城市立歴史資料館や中林梧竹記念館では展示や講座などの活動を通じ、小城の歴史や文化、中林梧竹をはじめとする偉人の紹介を行っています。しかしながら、資料館や記念館の入館者数は減少し、また講座の参加者は固定化してきています。

文化をつないでいきます

席書会

【課題解決に向けた取り組み】

①芸術・文化活動の充実

芸術・文化団体の活動の振興・充実のためには、優れた指導者の育成や活動場所の充実を図ること、また、絵画や音楽など高度な芸術を鑑賞することによって感動し、活動の気運を盛り上げることが大切です。これからは、指導者の育成、活動場所の充実、高度芸術を鑑賞する機会を創出することで、芸術・文化活動の充実に努めていきます。特に子ども達の文化発表の場や活動の場の創出に努めていきます。

②歴史・文化の継承

小城市立歴史資料館や中林梧竹記念館の資料充実を行い、展示会や講座などは市民の関心・ニーズに沿ったテーマを開催するよう努めていきます。特に小城は書聖中林梧竹の生誕地であり、梧竹デジタルミュージアムの拡大・充実を行い、全国に梧竹の書の魅力を発信していきます。

市民が、歴史・文化に関心を持ち、継承していくためには、小さい頃から歴史や文化に触れることが重要です。市内小・中学校と連携し、授業で歴史資料館や梧竹記念館の見学や、『小城歴史読本』を活用した郷土学習や市出身の偉人の顕彰を行い、小城の歴史や文化を受け継ぎ、新たな文化を創造する豊かな心を育み、後世へ伝える人づくりを行っていきます。

また、このような活動は市内の小城郷土史研究会や中林梧竹翁顕彰会など、関係団体と連携を進めていきます。

(2)　伝統芸能の継承

【現状と課題】

①守り伝えていく取り組み

小城市には、各地に昔から守り伝えられてきた浮立や祭りなどの伝統芸能があり、これらの伝統芸能は地域のつながりを深めるとともに、人々の暮らしに潤いを与えてきました。

しかし、生活様式の急激な変化や、少子高齢化などによる継承者の減少などで、活動や存続が厳しい状況に追い込まれています。また、市内の伝統芸能のＰＲや、伝統芸能団体の指導者や会員を育て、団体の活動を強化し伝統芸能を継承していくことが課題です。

【課題解決に向けた取り組み】

①守り伝えていく取り組み

伝統芸能は地域の誇りでもあり、人々の暮らしに密接にかかわってきました。伝統芸能を市報や市ホームページなどで広くＰＲし、多くの市民に知っていただき、発表の場を創出することで芸能団体の活動を活性化し、指導者や会員の確保をめざし、伝統芸能を守り伝えていく活動を支援していきます。

これからも伝えていきます

小城山挽祇園祭

(3)　文化財の適正な保存

【現状と課題】

①文化財の調査・保存

市内には数多くの貴重な文化財が残されています。しかし、文化財の保存・活用の面では不十分な点があり、早急な調査、修理、整備が必要なものがあります。また、これらの文化財の重要性を市民へ伝える機会が不足しています。

②文化財を未来に伝える

市内の発掘調査で出土する資料や民俗資料は、現在市内数箇所の保管場所で保管をしています。しかし、保管場所はほぼ満杯状態であり、かつ施設が老朽化している状況です。文化財を未来に伝えるためには、保管場所の確保に努め、一元的な管理・保管が必要です。

【課題解決に向けた取り組み】

①文化財の調査・保存

指定文化財の適切な保存、未指定文化財の調査を行い、指定、整備を進めるとともに、観光やまちづくりとの連携という視点に立ち、「屋根のない博物館構想」に基づき説明板の整備などを行い、市民にとって文化財が身近なものであることを周知していきます。

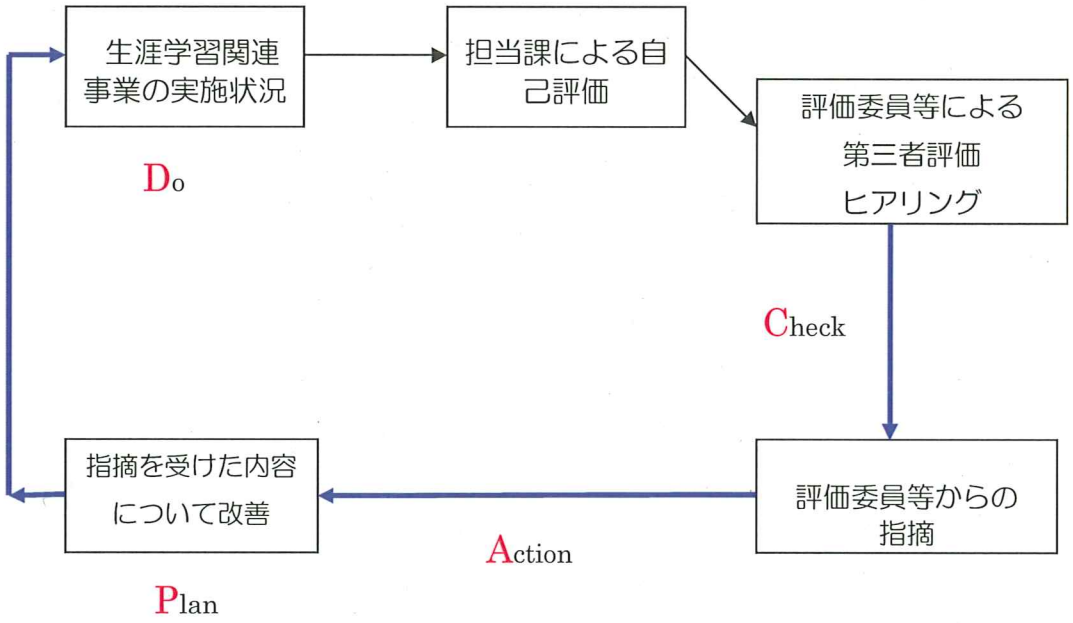
②文化財を未来に伝える

「屋根のない博物館構想」に基づき、説明板の設置やウォーキングなどを通じ、市内の文化財の啓発・保護・活用を今後も進めていきます。また、市報や市ホームページで文化財の重要性などの情報を発信していきます。

発掘調査等で出土する資料の保管場所の確保を検討し、適正な保存に努め、文化財を未来に伝えていきます。

６．各施策の取り組みの進捗管理

毎年、社会教育委員会において、また、ＰＤＣＡサイクルに基づく事務事業評価や教育委員会第三者評価委員会の結果等に基づき、本計画の各施策の取り組み等の進捗管理に努めていきます。



※　ＰＤＣＡサイクル

ＰＤＣＡサイクルとは、計画（Plan）⇒実行（Do）⇒点検・評価（Check）⇒改善（Action）のサイクルで進捗管理を行う流れのことです。

関連資料

・小城市スポーツ推進計画（抜粋）・・・・・・３０

・生涯学習関連施設の概要・・・・・・・・・・・３１

・生涯学習に関する市民アンケート結果・・・・３４

7．関連資料

小城市スポーツ推進計画　（　抜　粋　）

計画の基本理念と施策目標

1　基本理念（目指す姿）

スポーツの力で人も地域も元気になろう！
～　さあ、みんなでその一歩をふみだそう　～

2　施策目標

基本理念を実現するため、6つの施策目標をあげ推進します。

①子どもを取り巻く社会のスポーツ環境の充実
地域社会全体が連携・協力し、子どもがスポーツを行う機会を向上させます。

②ライフステージに応じたスポーツ活動等の推進
市民のだれもが年齢、性別を問わずライフステージに応じたスポーツ活動ができる環境の充実と促進を図ります。

③障害者スポーツの充実
障害のあるなしに関係なく、誰もが積極的にスポーツを行えるよう、必要な配慮を行い、障害者スポーツの普及・促進に努めます。

④地域のスポーツ指導者の充実
スポーツ活動を支える指導者やスポーツボランティアの育成を行い、地域に根差した指導者の活動形態を目指します。

⑤スポーツ施設の利便性の向上と安全の確保
誰もがそれぞれのライフステージに応じて楽しむことができるよう、ユニバーサルデザイン化を目指すとともに、安全の確保に努めます。

⑥関係各団体との連携
一般財団法人小城市体育協会及びスポーツ推進委員、関係各団体と連携を図り、競技スポーツの競技力の向上と住民スポーツの普及・促進に努めます。

生涯学習関連施設の概要

1．公　民　館　等

施設名	所在地	開館年月	構造等			施設概要
			構造種別	敷地面積 ㎡	建物面積 ㎡	
小城公民館	小城町 253-21	平 28. 1				小城市まちなか市民交流プラザ内１階
小城公民館 桜岡支館	小城町 253-21	平 28. 1				小城市まちなか市民交流プラザ内２階
小城公民館 岩松支館	小城町松尾 3780-1	昭 48. 4	鉄筋コンクリート平屋建	1,819.57	571	集会室、研修室、和室 調理実習室
小城公民館 晴田支館	小城町晴気 2096-1	昭 54. 4	鉄筋コンクリート平屋建	1,462	610	集会室、研修室、和室 調理実習室
小城公民館 三里支館	小城町栗原 1244-1	昭 53. 4	鉄筋コンクリート平屋建	1,974	563	集会室、研修室、和室 調理実習室
小城市生涯学習センター （三日月公民館）	三日月町 長神田 1845	平 8. 5	鉄筋コンクリート２階建	10,743	3,780	多目的文化ホール 504 席 市民図書館・視聴覚室・和室 小中会議室・生活工房
牛津公民館	牛津町柿樋瀬 1100-1	平 28. 1	鉄筋コンクリート２階建	1,906.43	1,552.09	１階・ホール、研修室、図書館分室 ２階・研修室、和室
牛津公民館 別館	牛津町勝 1324-1	平 2. 4	鉄筋コンクリート２階建	2,013	1,037	１階・小会議室、図書館分室 ２階・大会議室・和室２
芦刈地域交流センター （芦刈公民館）	芦刈町三王崎 349	平 24. 3	鉄筋コンクリート平屋建	7,280	2,038	会議室Ａ，Ｂ、和室Ａ、Ｂ、市民活動室、図書館分室、多目的ホール、交流ホール
教育集会所	小城町畑田 634	昭 51. 12	木造平屋建	594	167	小会議室、大会議室、児童室、調理室、事務室

2．社　会　体　育　施　設

施設名	所在地	開館年月	構造等			施設概要
			構造種別	敷地面積 ㎡	建物面積 ㎡	
小城体育センター	小城町畑田 98-1	昭 60. 4	鉄筋コンクリート 2 階建	4,657	1,729	バレー2 面・バスケット 2 面 バドミントン 6 面・卓球台 3 面 ミーティング室
三日月体育館	三日月町長神田 1848-9	昭 61. 3	鉄筋コンクリート 2 階建	8,788	1,996	バレー2 面・バスケット 2 面 バドミントン 6 面・卓球台 3 面 ミーティング室
三日月グラウンド	三日月町長神田 339-1	昭 63. 4		12,141		野球場 1 面　10,100 ㎡ ソフトボール 2 面(併用) ゲートボール 5 面　2,087 ㎡
三日月ふれあい公園テニスコート	三日月町樋口 1221	平 8. 5	砂入り人工芝	11,567		人工芝コート 2 面　1,604 ㎡ 夜間照明
牛津体育センター	牛津町柿樋瀬 1100-2	昭 56. 4	鉄筋コンクリート 2 階建	3,338	1,589	バレー2 面・バスケット 2 面 バドミントン 6 面・卓球台 3 面 ミーティング室
牛津武道館	牛津町牛津 556-1	平 6. 3	鉄筋コンクリート 2 階建	1,509	1,354	1 階・剣道場 2 面　478 ㎡ 2 階・柔道場 2 面　487 ㎡
牛津運動公園	牛津町下砥川 659-2	昭 56. 4		11,984		ソフトボール 2 面 グランドゴルフ・少年野球
芦刈文化体育館	芦刈町三王崎 172-1	平 5. 4	鉄筋コンクリート 2 階建	17,215 (駐車場等含む)	3,901	バレー3 面・バスケット 2 面 トレーニング室、会議室 2 階・柔道場 168 畳
芦刈運動公園	芦刈町三王崎 172-1	平 5. 3		1,442		テニスコート 2 面

３．研修センター

施設名	所在地	開館年月	構造等			施設概要
			構造種別	敷地面積 ㎡	建物面積 ㎡	
三日月野外研修センター	三日月町織島 2-13	昭 61．4	木造平屋一部２階建	8,791	469	宿泊棟(28 名)・研修棟(30 名) 炊事場・ファイヤー広場

４．文　化　施　設

施設名	所在地	開館年月	構造等			施設概要
			構造種別	敷地面積 ㎡	延床面積㎡	
桜城館	小城町 158-4	平成 11 年４月	鉄筋コンクリート２階建	4,228	3,497	１階：市民図書館小城館、図書館事務室、収蔵庫 ２階：中林梧竹記念館、歴史資料館、企画展示室、研修室、文化課事務室
小城文化センター	小城町 520-1	昭和 63 年４月	鉄筋コンクリート２階建	981	655	１階：ラウンジ、研修室、実習室、焼成窯 ２階：和室、音楽室
牛津会館	牛津町牛津 586	大正初期建築	木造平屋一部２階建	2,752	605	和室（４部屋）、炊事場、管理人室
牛津赤れんが館	牛津町牛津 586	明治中期建築	煉瓦造２階建		340	１階：ｺﾝｸﾘｰﾄ土間 ２階：板の間

生涯学習に関する市民アンケート調査結果報告

このアンケートは、平成25年に策定した生涯学習振興計画の見直しをおこなうにあたり、生涯学習事業を市民のニーズに即したものとするため、アンケート調査を実施しました。

アンケート結果については、下記のとおりです。

記

１．調査期間：平成２８年１１月２６日　～　平成２８年１２月１６日

２．調査対象：小城市在住の１６歳以上の男女２，０００人（無作為）

３．調査方法：郵送配布、郵送回収

４．回収状況：　回収数　５５０件　（２７.５％）

生涯学習に関する市民アンケート調査

～生涯学習について皆様の声をお聞かせください～

【アンケート調査への御協力のお願い】

日頃から、小城市教育の振興に対し、御理解と御協力をいただき誠にありがとうございます。

小城市では、小城市教育振興基本計画の基本目標【「城創伝心（じょうそうでんしん）」小城の歴史と伝統を受け継ぎ、文化を創造する豊かな心を育み後世へ伝える人づくり】をめざして、生涯学習事業を市民の皆様のニーズに即しつつ、平成25年に策定した生涯学習振興計画を改定するために、アンケート調査を実施します。

調査の対象として、市内にお住まいの16歳以上の男女2,000人の方を無作為に選びましたところ、あなたに回答をお願いすることになりましたので、趣旨を御理解いただき、御協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、調査結果につきましては、統計的に処理し、市の施策・事業推進の目的以外には使用いたしません。

平成28年11月

小城市教育委員会

【御記入にあたってのお願い】

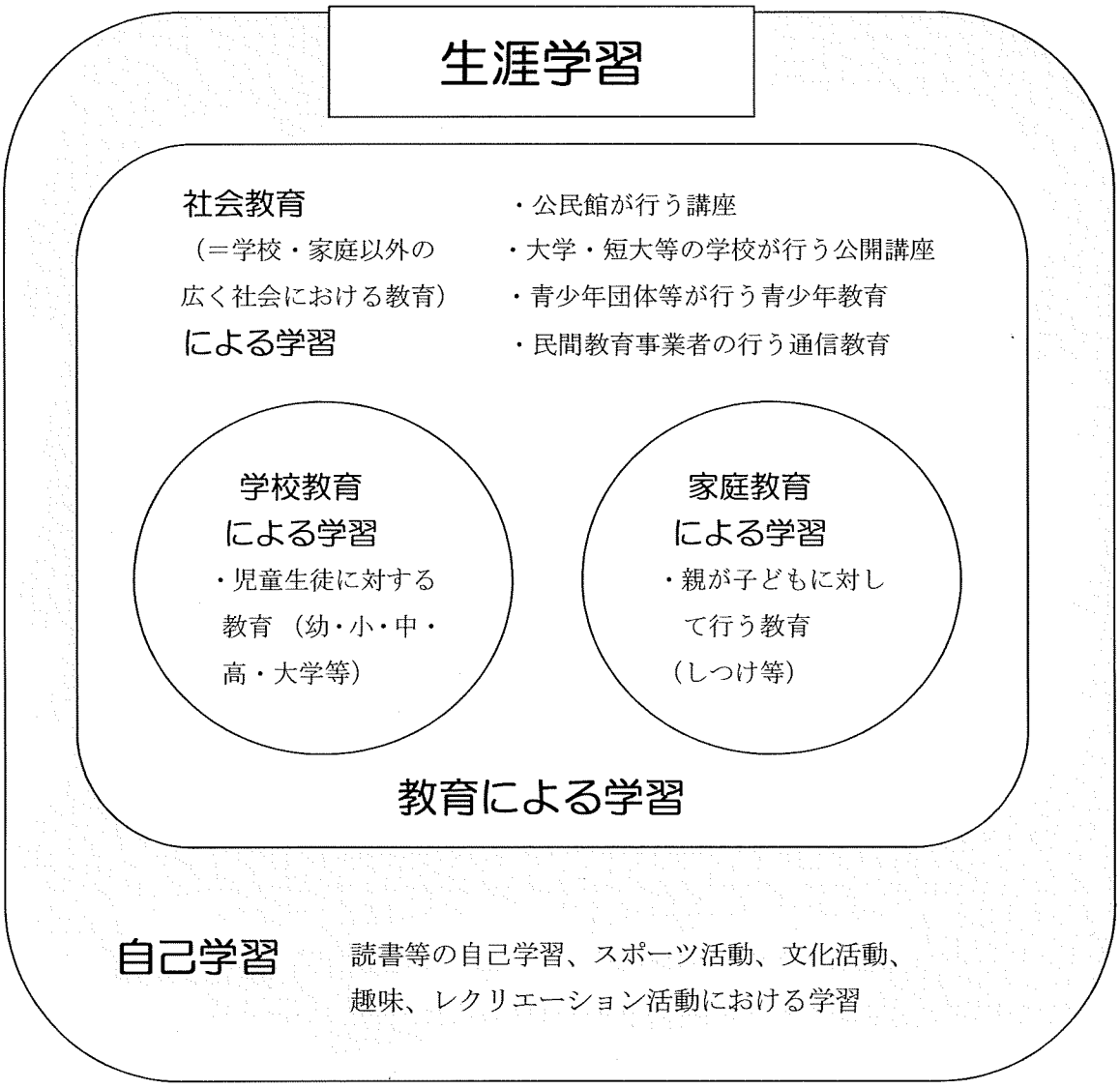
1．プライバシー保護の関係上、この調査票にはお名前・御住所を記入しないようお願いいたします。
2．このアンケート調査は個人を対象にしていますので、御本人による記入が困難な場合の代筆を除き、封筒のあて名の御本人が直接御記入ください。
3．回答は、あてはまる番号を○で囲んでください。
4．選んだ回答によっては、途中質問をとばしていただくところがありますので、ことわり書きどおりにお答えください。
5．回答として「その他」を選んだ場合、その番号を○で囲むとともに、（ ）内に回答内容を御記入ください。
6．御記入後は、無記名のまま、同封の返信用封筒に入れて、12月16日（金）までに郵便ポストへ御投函ください（切手は不要です）。

◎この調査に関する問い合わせ先
小城市教育委員会 生涯学習課　社会教育係
TEL：0952-37-6132 FAX：0952-37-6167

生涯学習とは・・・

生涯学習とは、人々が生涯のいつでも、家庭・学校・地域などの様々な場所や機会において学ぶ（学習する）活動のことです。

例えば、学校教育、家庭教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味など広い範囲でのあらゆる学習活動が含まれています。



1　生涯学習の現状についておたずねします

問１　あなたは、「生涯学習」という言葉を聞いたことがありますか。（ひとつに○）

1	聞いたことがあり、内容も理解している
2	聞いたことがあるが、内容はよくわからない
3	聞いたことがない

問２　あなたは、次に示す「生涯学習」をしたことがありますか。（○はいくつでも）

1	趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）
2	教養的なもの（文学、歴史、科学、語学など）
3	小城市の歴史・文化・文化財に関すること
4	人権問題に関すること
5	健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）
6	家庭生活に役立つ技能（料理、洋裁、和裁、編み物など）
7	育児・教育（家庭教育、幼児教育、教育問題など）
8	就職や転職のために必要な知識・技能（就職や転職に関係のある知識の習得や資格の取得など）
9	社会問題に関するもの（社会・時事、国際、環境、労働、消費問題など）
10	国際理解・国際交流に関すること
11	情報通信分野の知識・技能（プログラムの使い方、ホームページの作り方など）
12	ボランティア活動のために必要な知識・技能
13	自然体験や生活体験などの体験活動
14	まちづくり・地域づくりに関すること
15	学校（高等学校、専門・各種学校、大学、大学院など）の正規課程での学習
16	その他（　　）
17	生涯学習をしたことがない
18	わからない

【問２で１～16と回答した方のみお答えください】

問３　あなたは、どのような場所や形態で「生涯学習」をしたことがありますか。
（○はいくつでも）

1　公民館や生涯学習センターなど公的な機関における講座や教室
2　カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室、通信教育
3　学校（高等学校、大学、大学院、専門学校など）の公開講座や教室
4　職場の教育、研修
5　同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動
6　図書館、博物館、美術館
7　歴史資料館・中林梧竹記念館
8　テレビやラジオ
9　情報端末やインターネット
10　自宅での学習活動（書籍など）
11　その他（　　）
12　わからない

【問２で１～16と回答した方のみお答えください】

問４　あなたは、問３で答えた場所は主にどこの市町でしたか。（ひとつに○）

1　小城市内　　2　小城市外（　　）

【問２で１～16 と回答した方のみお答えください】

問５　あなたは、「生涯学習」を通じて身につけた知識・技能や経験を、どのように生かしていますか。（○はいくつでも）

1	仕事や就職の上で生かしている（仕事で役立つスキルや資格を身につけた、給与面で優遇を受けた、就職活動に役だったなど）
2	資格の取得に生かしている
3	家庭・日常の生活に生かしている
4	地域や社会での活動に生かしている
5	その知識・技能や経験を土台にして、さらに広く、深い知識・技能を身につけるよう努めている
6	他の人の学習やスポーツ、文化活動などの指導に生かしている
7	自分の人生がより豊かになっている
8	自分の健康の維持・増進に役立っている
9	学業、学校生活の上で生かしている
10	その他（　　）
11	生かしていない
12	わからない

【問２で 17 と回答した方のみお答えください】

問６「生涯学習」をしていない理由は何ですか。（○はいくつでも）

1	仕事や家事が忙しくて時間がない
2	子どもや親などを見てくれる人がいない
3	費用がかかる
4	必要な情報（内容・時間・場所・費用）がなかなか入手できない
5	一緒に学習や活動をする仲間がいない
6	身近なところに施設や場所がない
7	講座や教室などが、自分の希望する内容や実施時期・時間に合わない
8	家族や職場などの周囲の理解が得られない
9	きっかけがつかめない
10	する必要を感じない
11	特に理由はない
12	その他（　　）

問７ 市の生涯学習関連施設（公民館、体育館、図書館など）を利用する上での問題点は何ですか。（○はいくつでも）

1	使える時間帯が希望と合わない
2	使える日時や曜日が希望と合わない
3	予約が取りにくい
4	利用に関する情報が乏しい
5	施設の場所が利用しづらい
6	利用料金が高い
7	サービスが悪い
8	希望する講座や教室がない
9	希望する展示・蔵書・資料がない
10	する必要がない
11	特に問題はない
12	その他（　　）

問８ あなたは、「生涯学習」に関する情報を、どのように得ていますか。（○はいくつでも）

1	パンフレット・チラシ・ポスター
2	新聞・雑誌・テレビ・ラジオ
3	市や県の広報誌・ホームページ
4	インターネット（パソコン・携帯）
5	自治会の回覧
6	友人・知人からの紹介
7	特にない
8	その他（　　）

2 生涯学習に対する今後の意向についておたずねします

問９ あなたが、生涯学習活動を始めるための機会や条件として重視するものは何ですか。（○はいくつでも）

1 必要な情報が入手できること
2 適切な施設、場所が近くにあること
3 一緒に活動する友人や仲間がいること
4 魅力ある講師や指導者に出会えること
5 魅力ある講座や教室が開かれていること
6 適切な曜日や時間に開かれること
7 時間に余裕ができること
8 自分にとって必要だと感じること
9 家族や職場の理解が得られること
10 経費がかかり過ぎないこと
11 健康や体の調子がよいこと
12 育児や介護などの時間が軽減されること
13 その他（ ）

問 10 あなたは、どのような「生涯学習」に関する情報を望みますか。（○はいくつでも）

1 講座・教室の情報
2 イベント情報（講演・展覧会など）
3 施設の情報
4 学習教材・プログラムの情報
5 講師や指導者の情報
6 地域活動・ボランティアの情報
7 大学などの教育機関の情報
8 学習グループ・団体などの情報
9 情報を発信している主体の情報
10 資格取得の情報
11 民間の学習情報
12 特にない
13 その他（ ）

問 11　あなたは、今後、どのような「生涯学習」の機会が増えればよいと思いますか。（○はいくつでも）

1	公民館・図書館・歴史資料館・中林梧竹記念館などを利用した学習機会
2	市や関連団体が主催する講座や教室などの学習機会
3	大学や専門学校、高等学校などで社会人を対象とした公開講座
4	民間の通信教育やカルチャーセンターなどを活用した学習機会
5	パソコン・インターネットを活用した学習機会
6	ボランティア活動などを通じた学習の機会
7	自然体験や生活体験などの活動の機会
8	地域づくりに関する学習機会
9	コミュニティ・ビジネスに関する学習機会
10	特にない
11	その他（　　）

問 12　あなたは、美術館、博物館などの展示会を見学したことがありますか。（ひとつに○）

1	ある	2	ない

【問 12 で 1 と回答した方のみお答えください】

問 13　あなたは、小城市立歴史資料館、中林梧竹記念館の展示会を見学したことがありますか。（ひとつに○）

1	ある	2	ない

問 14　あなたは、小城市立歴史資料館、中林梧竹記念館で今後どのような展示会の企画を望まれますか。（○はいくつでも）

1	小城市の歴史や文化等に関するもの
2	中林梧竹を含む小城出身の偉人に関するもの
3	書や絵画など美術に関するもの
4	その他（　　）

問 15　あなたは、小城市立歴史資料館、中林梧竹記念館での講座・講演会に参加したことがありますか。（ひとつに○）

1	ある	2	ない

問 16　あなたは、小城市立歴史資料館、中林梧竹記念館で今後どのような講座・講演会の開催を望まれますか。（○はいくつでも）

1　小城市の歴史や文化等に関するもの 2　中林梧竹を含む小城出身の偉人に関するもの 3　書や絵画など美術に関するもの 4　その他（　　）

問 17　あなたは、梧竹デジタルミュージアムを閲覧されたことがありますか。（ひとつに○）

1　ある　　2　ない

※梧竹デジタルミュージアム
平成 28 年３月１日から、中林梧竹記念館所蔵の中林梧竹の作品を、市のホームページで閲覧することができるようになりました。

問 18　あなたは、最近一年間に小城市民図書館（小城館・三日月館・牛津分室・芦刈分室・自動車図書館）を利用したことがありますか。（ひとつに○）

1　ある　　2　ない

問 19　あなたは、小城市民図書館に対してどんな要望がありますか。（○はいくつでも）

1　蔵書やＣＤ・ＤＶＤなどの資料を増やす 2　読書に関する案内や相談業務の充実 3　児童書（絵本含む）の充実 4　郷土に関する資料の充実 5　自動車図書館による市内巡回貸出しの実施 6　講座などの開催 7　特に要望はない 8　その他　（　　）

【問 18 で２と回答した方のみお答えください】

問 20　小城市民図書館を利用しなかった理由はなんですか。（○はいくつでも）

1　利用したい資料・設備がない
2　交通手段がなく利用できない
3　館内環境（座席・雰囲気など）が好きではない
4　場所がわからない
5　書店などで購入するので利用する必要はない
6　その他（　　）

問 21　近年、紙の印刷物ではなく、パソコンや携帯電話などで読める形にした電子書籍がありますが、あなたは、今後、紙の本と電子書籍、どちらの方を利用したいと思いますか。（ひとつに○）

1　紙の本を利用したい
2　電子書籍を利用したい
3　どちらかといえば紙の本を利用したい
4　どちらかといえば電子書籍を利用したい
5　どちらも同じくらい利用したい

問 22　あなたは、小城市民図書館にない資料を国立国会図書館や、県内外の図書館からも借りられることを御存知ですか。（ひとつに○）

1　知っている	2　知らない

問 23　あなたは、地域の行事や活動に参加していますか。（ひとつに○）

1　参加している	2　参加していない

【問23で２と回答した方のみお答えください】

問24　参加していない理由は何ですか。（○はいくつでも）

1　仕事や家事や学業が忙しくて時間がない
2　子どもや親などの世話をしてくれる人がいない
3　必要な情報がなかなか入手できない
4　一緒に参加する仲間がいない
5　きっかけがつかめない
6　そういうことは好きではない
7　特に理由はない
8　その他（　　）

問25　あなたは、家庭教育の支援のために、何が必要だと思いますか。
（○は３つまで）

1　家庭教育に関する講座・講演・イベントなどの充実
2　家庭教育に関する学習資料の作成・配布
3　家庭教育に関する情報提供の充実
4　家庭教育に関する身近な相談体制の充実
5　テレビ・新聞などのマスメディアによる広報
6　ＰＴＡ活動の充実
7　さまざまな地域団体の活動の活性化
8　保護者が家庭教育などについて情報交換や仲間づくりなどができる場作り
9　地域の住民同士のつながり・ネットワークづくり
10　その他（　　）
11　わからない

3 生涯学習の推進に向けておたずねします

問 26 今後、人々の「生涯学習」をもっとすすめていくために、市ではどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（○はいくつでも）

1 生涯学習関連施設（公民館、体育館、図書館など）におけるサービスの充実（講座の充実、開館時間の拡大、相談窓口の充実、無料 Wi-Fi 設置等）
2 生涯学習を始める人への支援の充実（サークル体験など）
3 生涯学習に関する専門職員の充実（社会教育主事、司書、学芸員、スポーツ推進委員など）
4 生涯学習を支援する地域人材の育成（学習相談や学習機会のコーディネーターなど）
5 情報の一元化など、生涯学習に関する情報提供の充実
6 住民や学習団体のニーズや満足度などの把握と施策への反映
7 地域活動団体、青少年団体などのボランティア活動の活性化や、活動の支援
8 生涯学習を通じて身につけた成果や、その成果を生かした活動に対する社会的評価の促進（表彰する、活動歴を履歴書に記載するなど）
9 知識や技能を形として表せるような資格・検定などの充実
10 特にない
11 その他（ ）

問 27 あなたが、学んでみたい講座は、どのような講座ですか。（○は 2 つまで）

1 福祉
2 環境
3 ボランティア
4 防災
5 人権
6 情報化
7 子育て
8 健康
9 年金
10 地域の絆づくり
11 その他（ ）

問 28　その他、市の生涯学習を推進するための御提案、御意見など自由にお書きください。

最後にあなた御自身についておたずねします

（1）性 別

1　女 性　　2　男 性

（2）年 齢

1　１０歳代 2　２０歳代 3　３０歳代 4　４０歳代 5　５０歳代 6　６０歳代 7　７０歳代以上 ※ 平成 28 年 4 月 1 日現在の満年齢でお答えください。

（3）職 業

1　正規雇用者（正規の職員・従業者） 2　非正規雇用者（パート・アルバイト） 3　派遣社員、契約社員 4　農林水産業（自営・家族従業者） 5　商工・サービス業（自営・家族従業者） 6　自由業 7　家事従事者 8　学生 9　無職 10　その他

（4）お住まいの地区

1　小城地区 2　三日月地区 3　牛津地区 4　芦刈地区

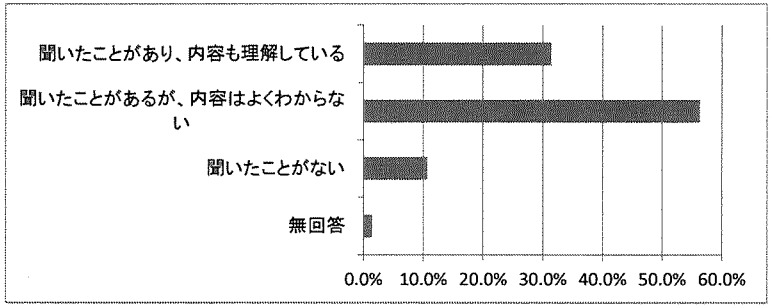
以上でアンケートは終了です。御協力ありがとうございました。

「生涯学習に関する市民アンケート」集計表

※属性別集計では、項目の中で数値が一番多いものに色付けしてい

問1 あなたは、「生涯学習」という言葉を聞いたことがありますか。(ひとつに○)

	回答数	構成比	前回調査
① 聞いたことがあり、内容も理解している	173	31.5%	42.4%
② 聞いたことがあるが、内容はよくわからない	310	56.4%	51.8%
③ 聞いたことがない	59	10.7%	4.4%
④ 無回答	8	1.5%	1.5%
計	550	100.0%	



【考察】

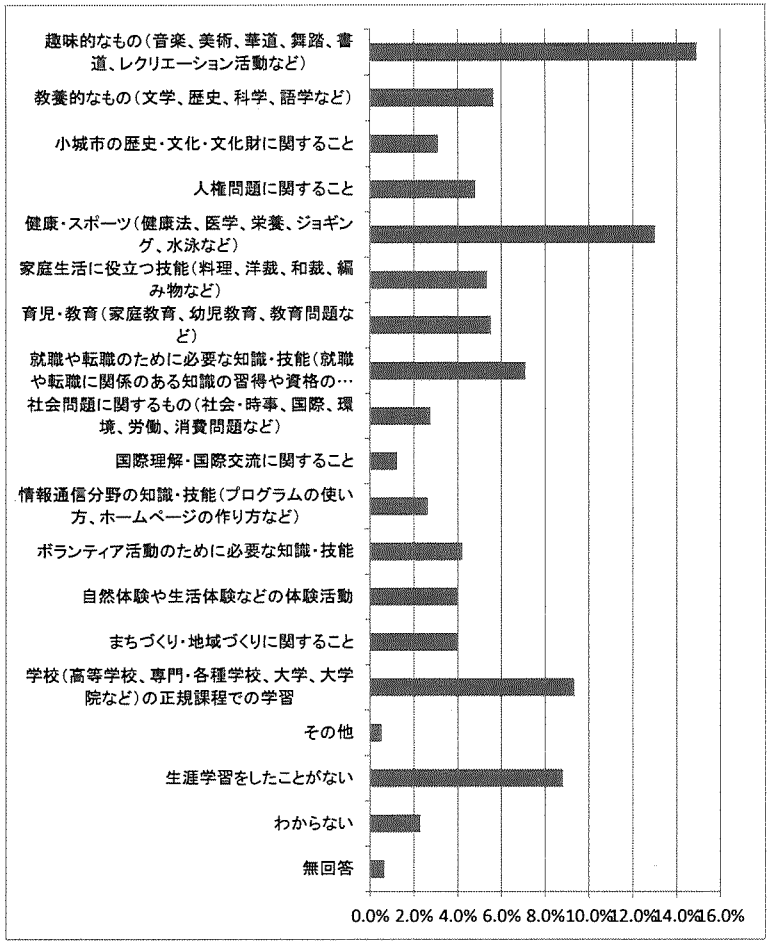
前回のアンケートよりも、「聞いたことがあり、内容も理解している」が42.4%から31.5%と10.5%少なく、また、「聞いたことがない」が4.4%から10.7%と多くなっており、「生涯学習」の認知度が低下していることがうかがえます。

問1 あなたは、「生涯学習」という言葉を聞いたことがありますか。（ひとつに○）

属性	区分	①	②	③	④
性別	女性	81	165	24	5
	男性	84	123	31	3
	無回答	8	22	4	0
	合計	173	310	59	8
年齢	１０代	6	18	11	0
	２０代	10	32	11	1
	３０代	16	37	11	0
	４０代	25	41	7	1
	５０代	34	59	5	2
	６０代	57	68	8	1
	７０代以上	17	33	2	3
	無回答	8	22	4	0
	合計	173	310	59	8
職業	正規雇用者（正規の職員・従業者）	66	100	16	1
	非正規雇用者（パート・アルバイト）	18	45	8	3
	派遣社員、契約社員	3	9	5	1
	農林水産業（自営・家族従業者）	6	16	0	0
	商工・サービス業（自営・家族従業者）	2	17	0	0
	自由業	4	2	1	0
	家事従事者	15	26	4	0
	学生	10	26	11	0
	無職	38	40	6	3
	その他	3	7	4	0
	無回答	8	22	4	0
	合計	173	310	59	8

問2 あなたは、次に示す「生涯学習」をしたことがありますか。（○はいくつでも）

		回答数	構成比	前回調査
①	趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踏、書道、レクリエーション活動など）	227	14.9%	10.6%
②	教養的なもの（文学、歴史、科学、語学など）	86	5.7%	6.5%
③	小城市の歴史・文化・文化財に関すること	47	3.1%	3.6%
④	人権問題に関すること	73	4.8%	5.4%
⑤	健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）	198	13.0%	14.3%
⑥	家庭生活に役立つ技能（料理、洋裁、和裁、編み物など）	81	5.3%	6.0%
⑦	育児・教育（家庭教育、幼児教育、教育問題など）	84	5.5%	4.4%
⑧	就職や転職のために必要な知識・技能（就職や転職に関係のある知識の習得や資格の取得など）	108	7.1%	9.0%
⑨	社会問題に関するもの（社会・時事、国際、環境、労働、消費問題など）	42	2.8%	—
⑩	国際理解・国際交流に関すること	19	1.3%	1.3%
⑪	情報通信分野の知識・技能（プログラムの使い方、ホームページの作り方など	40	2.6%	—
⑫	ボランティア活動のために必要な知識・技能	64	4.2%	7.7%
⑬	自然体験や生活体験などの体験活動	61	4.0%	2.2%
⑭	まちづくり・地域づくりに関すること	61	4.0%	3.6%
⑮	学校（高等学校、専門・各種学校、大学、大学院など）の正規課程での学習	142	9.3%	2.5%
⑯	その他	8	0.5%	0.9%
⑰	生涯学習をしたことがない	134	8.8%	14.5%
⑱	わからない	35	2.3%	—
⑲	無回答	10	0.7%	—
	計	1520	100.0%	



その他記述

・人生の先輩であるお年寄りに話を聞いて学ぶことなど。
・ダンスイベント出演。
・老人大学。
・企業教育。
・生涯学習とはいえない程度の学びです。
・農業。
・ゆめさが大学・大学院で学ぶ。
・ない。

【考察】

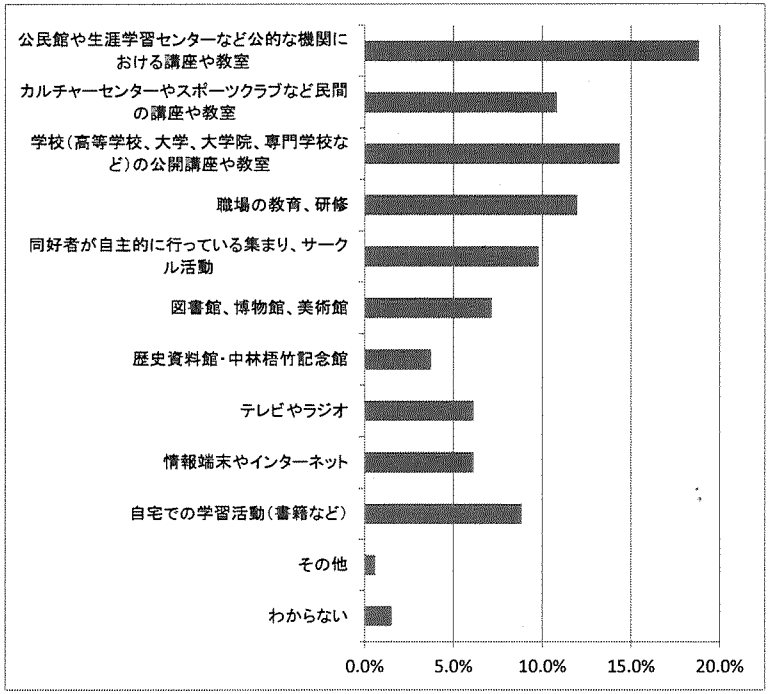
生涯学習活動としては、「趣味的なもの」が一番多く、次に「健康・スポーツ」、3番目に「学校の正規課程での学習」が多くなっています。
前回のアンケートでは、「していない」と回答した方が14．5%を占めていましたが、今回「したことがない」と回答した方が8．8%と少なくなっていることから、問1の「生涯学習」という言葉の理解は少なくなっているものの、生涯学習活動は行っていることがうかがえます。

問2 あなたは、次に示す「生涯学習」をしたことがありますか。（○はいくつでも）

属性	区分	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲
性別	女性	135	45	16	38	104	62	56	55	18	11	19	30	34	31	78	5	57	8	3
	男性	77	33	27	32	85	13	23	44	22	5	19	29	26	30	55	3	66	23	6
	無回答	15	8	4	3	9	6	5	9	2	3	2	5	1	0	9	0	11	4	1
	合計	227	86	47	73	198	81	84	108	42	19	40	64	61	61	142	8	134	35	10
年齢	１０代	21	10	4	8	18	11	3	7	3	5	7	9	10	4	20	1	2	5	0
	２０代	27	12	5	9	29	8	8	14	5	2	7	7	12	8	33	0	4	5	1
	３０代	28	11	4	6	17	9	15	17	7	0	2	6	8	7	24	1	12	4	0
	４０代	25	12	5	2	35	9	19	27	5	2	5	5	8	7	20	1	17	2	1
	５０代	31	12	4	17	33	12	14	13	5	2	8	9	6	8	16	1	28	6	1
	６０代	60	17	15	19	44	21	14	16	8	2	7	14	13	21	17	3	40	5	1
	７０代以上	20	4	6	9	13	5	6	5	7	3	2	9	3	6	3	1	20	4	5
	無回答	15	8	4	3	9	6	5	9	2	3	2	5	1	0	9	0	11	4	1
	合計	227	86	47	73	198	81	84	108	42	19	40	64	61	61	142	8	134	35	10
職業	正規雇用者（正規の職員・従業者）	74	30	12	26	79	20	30	42	19	3	13	19	21	19	48	2	39	8	1
	非正規雇用者（パート・アルバイト）	28	10	4	5	23	11	17	20	4	1	4	4	6	6	19	0	15	4	2
	派遣社員、契約社員	1	0	2	2	2	3	2	2	0	0	1	2	1	2	1	1	10	3	0
	農林水産業（自営・家族従業者）	5	1	2	3	4	2	2	2	0	0	1	1	1	4	2	1	9	2	1
	商工・サービス業（自営・家族従業者）	6	3	1	2	6	2	3	1	1	1	0	4	1	3	3	1	5	1	1
	自由業	4	2	0	0	1	0	0	2	2	0	0	0	1	0	1	0	2	0	0
	家事従事者	26	7	4	8	18	12	10	6	2	1	3	8	6	6	12	1	8	0	1
	学生	27	14	4	10	25	12	3	11	3	7	9	13	11	8	31	1	3	6	0
	無職	37	11	11	12	27	12	10	11	9	3	6	6	11	11	13	1	28	6	3
	その他	4	0	3	2	4	1	2	2	0	0	1	2	1	2	3	0	4	1	0
	無回答	15	8	4	3	9	6	5	9	2	3	2	5	1	0	9	0	11	4	1
	合計	227	86	47	73	198	81	84	108	42	19	40	64	61	61	142	8	134	35	10

【問2で1～16と回答した方のみお答えください】
問3 あなたは、どのような場所や形態で「生涯学習」をしたことがありますか。
（○はいくつでも）

		回答数	構成比	前回調査
①	公民館や生涯学習センターなど公的な機関における講座や教室	181	18.8%	10.8%
②	カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室	104	10.8%	10.2%
③	学校（高等学校、大学、大学院、専門学校など）の公開講座や教室	138	14.4%	5.3%
④	職場の教育、研修	115	12.0%	11.8%
⑤	同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動	94	9.8%	11.4%
⑥	図書館、博物館、美術館	69	7.2%	6.4%
⑦	歴史資料館・中林梧竹記念館	36	3.7%	3.4%
⑧	テレビやラジオ	59	6.1%	7.1%
⑨	情報端末やインターネット	59	6.1%	11.0%
⑩	自宅での学習活動（書籍など）	85	8.8%	11.1%
⑪	その他	6	0.6%	1.2%
⑫	わからない	15	1.6%	—
	計	961	100.0%	



その他記述

・自動車学校。
・語学を留学生に習う。
・先生の自宅。
・教室。
・ゆめさが大学。
・組合活動。

【考察】

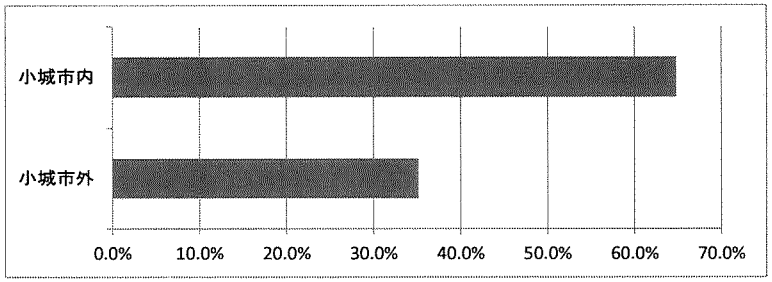
場所や形態としては、「公民館や生涯学習センターなど公的な機関における講座や教室」が最も多く、次に「学校（高等学校、大学、大学院、専門学校など）の公開講座や教室」、3番目に「職場の教育、研修」となっています。
前回アンケートに比べ、公的な機関における講座や学校での参加が多くなっており、生涯学習講座に対する関心が大きくなっていることがうかがえます。

【問2で1～16と回答した方のみお答えください】
問3 あなたは、どのような場所や形態で「生涯学習」をしたことがありますか。
（○はいくつでも）

属性	区分	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
性別	女性	111	69	71	55	46	37	16	29	27	43	4	5
	男性	64	28	57	57	42	28	17	27	30	37	2	9
	無回答	6	7	10	3	6	4	3	3	2	5	0	1
	合計	181	104	138	115	94	69	36	59	59	85	6	15
年齢	１０代	13	10	21	2	4	6	5	5	9	7	0	1
	２０代	16	14	31	17	14	7	3	5	6	10	0	3
	３０代	21	13	24	23	5	12	4	9	12	14	1	3
	４０代	22	18	20	22	16	7	3	8	11	15	1	0
	５０代	36	20	17	21	16	8	5	6	7	10	1	2
	６０代	45	18	14	22	21	16	7	13	10	18	3	3
	７０代以上	22	4	1	5	12	9	6	10	2	6	0	2
	無回答	6	7	10	3	6	4	3	3	2	5	0	1
	合計	181	104	138	115	94	69	36	59	59	85	6	15
職業	正規雇用者（正規の職員・従業者）	59	37	54	67	30	19	8	17	24	30	2	4
	非正規雇用者（パート・アルバイト）	22	13	14	16	13	8	0	5	6	9	0	0
	派遣社員、契約社員	6	2	1	3	2	1	0	0	0	2	0	2
	農林水産業（自営・家族従業者）	4	1	0	1	2	1	2	2	2	1	0	1
	商工・サービス業（自営・家族従業者）	6	2	3	4	1	1	0	2	0	0	1	1
	自由業	4	2	0	1	1	1	1	1	2	1	1	0
	家事従事者	21	14	10	5	10	4	0	5	3	7	1	0
	学生	19	15	32	4	11	9	6	7	12	10	0	2
	無職	31	10	9	9	17	16	12	16	7	18	1	4
	その他	3	1	5	2	1	5	4	1	1	2	0	0
	無回答	6	7	10	3	6	4	3	3	2	5	0	1
	合計	181	104	138	115	94	69	36	59	59	85	6	15

【問2で1～16と回答した方のみお答えください】
問4　あなたは、問3で答えた場所は主にどこの市町でしたか。（ひとつに○）

		回答数	構成比
①	小城市内	216	64.9%
②	小城市外	117	35.1%
	計	333	100.0%



小城市外記述

	回答数	構成比
佐賀市	73	59.3%
神崎市	2	1.6%
多久市	2	1.6%
鳥栖市	1	0.8%
唐津市	3	2.4%
武雄市	6	4.9%
鹿島市	3	2.4%
嬉野市	1	0.8%
福富町	1	0.8%
みやき町	1	2.4%
白石町	3	2.4%
福岡県	12	9.8%
長崎県	4	3.3%
大分県	2	1.6%
熊本県	1	0.8%
大阪府	1	0.8%
静岡県	2	1.6%
広域、県外	5	4.1%
	123	

【考察】

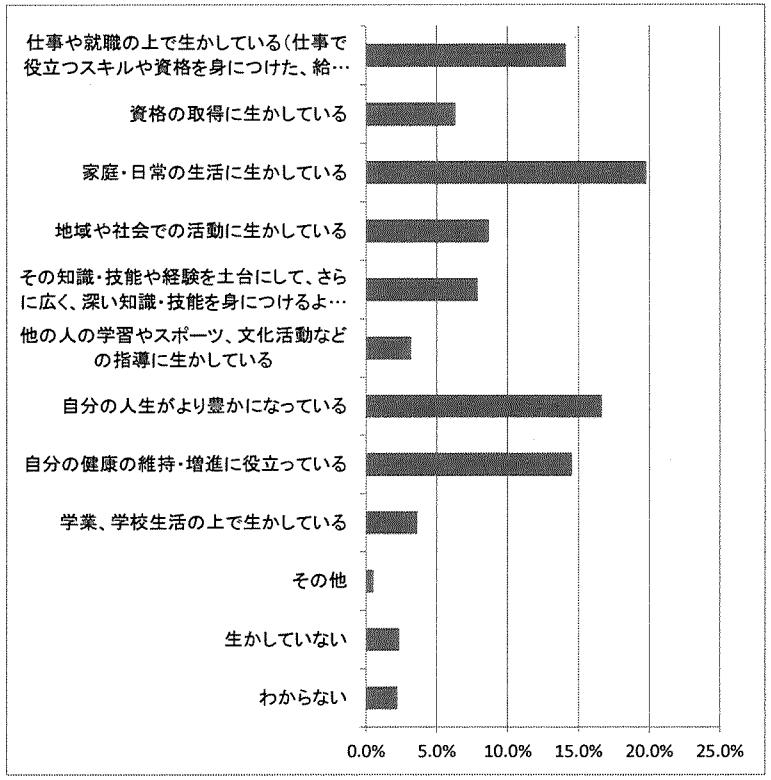
生涯学習活動の場所については、小城市内が64．9％ですが、小城市外での活動場所として、佐賀市が最も多くなっています。また、県外で活動されている方もうかがえます。

【問2で1～16と回答した方のみお答えください】
問4　あなたは、問3で答えた場所は主にどこの市町でしたか。（ひとつに○）

属性	区分	①	②
性別	女性	115	66
	男性	91	45
	無回答	10	6
	合計	216	117
年齢	１０代	22	5
	２０代	24	15
	３０代	21	24
	４０代	26	19
	５０代	41	13
	６０代	50	29
	７０代以上	22	6
	無回答	10	6
	合計	216	117
職業	正規雇用者（正規の職員・従業者）	60	52
	非正規雇用者（パート・アルバイト）	29	15
	派遣社員、契約社員	6	0
	農林水産業（自営・家族従業者）	7	0
	商工・サービス業（自営・家族従業者）	8	3
	自由業	2	3
	家事従事者	23	11
	学生	26	12
	無職	38	12
	その他	7	3
	無回答	10	6
	合計	216	117

【問2で1～16と回答した方のみお答えください】
問5 あなたは、「生涯学習」を通じて身につけた知識・技能や経験を、どのように生かしていますか。（○はいくつでも）

		回答数	構成比	前回調査
①	仕事や就職の上で生かしている（仕事で役立つスキルや資格を身につけた、給与面で優遇を受けた、就職活動に役だったなど）	132	14.1%	14.6%
②	資格の取得に生かしている	59	6.3%	3.9%
③	家庭・日常の生活に生かしている	185	19.8%	18.8%
④	地域や社会での活動に生かしている	81	8.7%	9.8%
⑤	その知識・技能や経験を土台にして、さらに広く、深い知識・技能を身につけるよう努めている	74	7.9%	8.4%
⑥	他の人の学習やスポーツ、文化活動などの指導に生かしている	30	3.2%	3.6%
⑦	自分の人生がより豊かになっている	156	16.7%	18.6%
⑧	自分の健康の維持・増進に役立っている	136	14.5%	18.8%
⑨	学業、学校生活の上で生かしている	34	3.6%	2.1%
⑩	その他	5	0.5%	0.5%
⑪	生かしていない	22	2.4%	1.1%
⑫	わからない	21	2.2%	—
	計	935	100.0%	



その他記述

・会社の社員指導。
・たいした学習ではないので、特に生かしているとは思わない。
・学習した語学で観光客と交流。
・まだ十分に活用できるレベルまで習得できていない。

【考察】

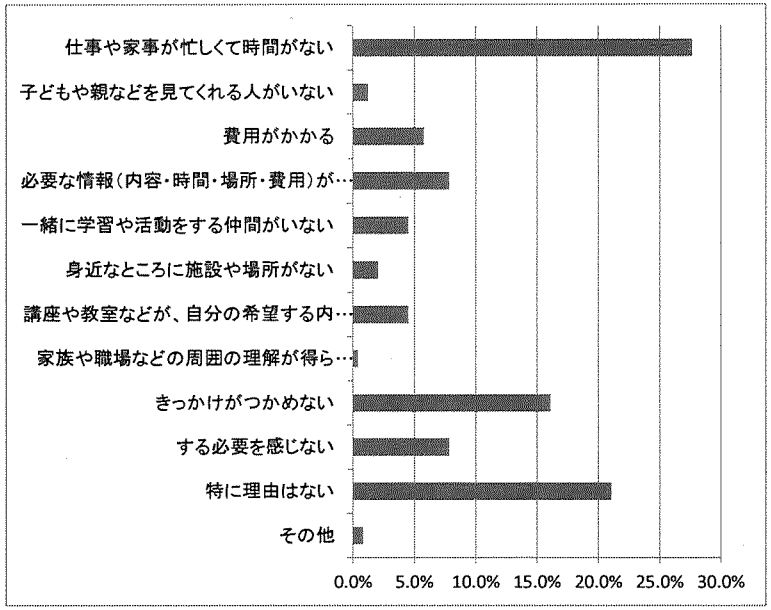
身につけた知識・技能や経験をどのように生かしているかについては、「家庭・日常の生活に生かしている」が最も多く、次に「自分の人生がより豊かになっている」、3番目に「自分の健康の維持・増進に役立っている」、4番目に「仕事や就職の上で生かしている」となっています。
前回のアンケートと同じ傾向にあり、身につけた知識や技能は、身近な生活で生かしていることがうかがえます。

【問2で1～16と回答した方のみお答えください】
問5 あなたは、「生涯学習」を通じて身につけた知識・技能や経験を、どのように生かしていますか。
（○はいくつでも）

属性	区分	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
性別	女性	63	31	113	39	31	9	87	72	18	4	14	9
	男性	63	25	64	38	37	21	61	53	14	1	8	11
	無回答	6	3	8	4	6	0	8	11	2	0	0	1
	合計	132	59	185	81	74	30	156	136	34	5	22	21
年齢	１０代	6	6	18	6	12	2	13	9	19	0	1	3
	２０代	22	13	20	5	9	3	14	7	8	0	4	4
	３０代	28	8	21	11	10	4	16	11	3	0	2	4
	４０代	28	12	23	8	15	8	22	19	1	0	3	2
	５０代	20	7	29	11	9	4	18	22	1	1	9	1
	６０代	18	8	50	27	8	6	47	40	0	3	3	4
	７０代以上	4	2	16	9	5	3	18	17	0	1	0	2
	無回答	6	3	8	4	6	0	8	11	2	0	0	1
	合計	132	59	185	81	74	30	156	136	34	5	22	21
職業	正規雇用者（正規の職員・従業者）	76	29	52	24	26	15	45	39	5	2	6	6
	非正規雇用者（パート・アルバイト）	21	7	25	9	9	2	19	18	0	0	4	1
	派遣社員、契約社員	2	0	1	2	0	0	3	1	0	0	2	1
	農林水産業（自営・家族従業者）	2	0	7	3	2	1	3	6	0	0	0	0
	商工・サービス業（自営・家族従業者）	1	1	8	3	1	0	5	7	0	1	2	0
	自由業	1	1	1	1	2	0	3	1	0	0	0	0
	家事従事者	5	3	25	11	4	4	15	16	2	0	2	0
	学生	9	10	21	7	15	2	17	11	24	0	2	5
	無職	6	4	33	16	7	5	36	24	1	2	3	5
	その他	3	1	4	1	2	1	2	2	0	0	1	2
	無回答	6	3	8	4	6	0	8	11	2	0	0	1
	合計	132	59	185	81	74	30	156	136	34	5	22	21

【問2で17と回答した方のみお答えください】
問6「生涯学習」をしていない理由は何ですか。（○はいくつでも）

		回答数	構成比	前回調査
①	仕事や家事が忙しくて時間がない	67	27.7%	24.8%
②	子どもや親などを見てくれる人がいない	3	1.2%	2.0%
③	費用がかかる	14	5.8%	7.5%
④	必要な情報（内容・時間・場所・費用）がなかなか入手できない	19	7.9%	6.2%
⑤	一緒に学習や活動をする仲間がいない	11	4.5%	5.1%
⑥	身近なところに施設や場所がない	5	2.1%	3.3%
⑦	講座や教室などが、自分の希望する内容や実施時期・時間に合わない	11	4.5%	7.9%
⑧	家族や職場などの周囲の理解が得られない	1	0.4%	1.1%
⑨	きっかけがつかめない	39	16.1%	17.1%
⑩	する必要を感じない	19	7.9%	5.1%
⑪	特に理由はない	51	21.1%	14.7%
⑫	その他	2	0.8%	5.3%
	計	242	100.0%	



その他記述

・はっきりわからないから。
・今は仕事、家の事などで時間がありません。
・生涯学習ってなんですか？初めて目にしました。以前、パソコン教室に参加したことがありますが、それもこれですか？

【考察】

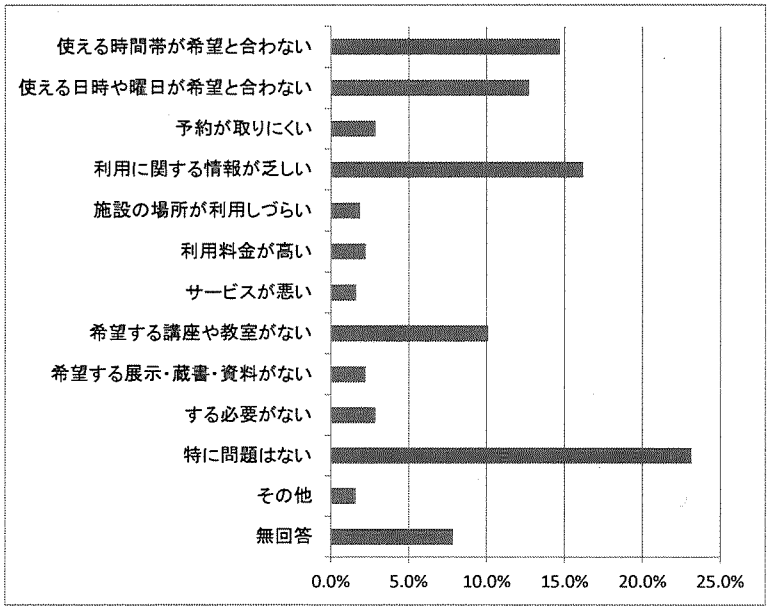
「生涯学習」をしていない理由としては、「仕事や家事が忙しくて時間がない」が最も多く、次に「特に理由はない」、3番目に「きっかけがつかめない」となっています。
前回のアンケートと同じ傾向にありますが、「特に理由はない」が14．7%から21．1%、「する必要を感じない」が5．1%から7．9%と多くなっており、講座や情報発信の充実などを図り、生涯学習をおこなうきっかけづくりなど、無関心層への働きかけを検討することが必要と思われます。

【問2で17と回答した方のみお答えください】
問6「生涯学習」をしていない理由は何ですか。（○はいくつでも）

属性	区分	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
性別	女性	26	3	9	7	6	1	7	0	18	5	21	2
	男性	32	0	4	10	3	4	3	1	19	13	28	0
	無回答	9	0	1	2	2	0	1	0	2	1	2	0
	合計	67	3	14	19	11	5	11	1	39	19	51	2
年齢	１０代	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0
	２０代	1	0	0	2	0	0	0	0	3	1	2	0
	３０代	10	2	2	1	1	0	1	0	3	2	5	0
	４０代	11	1	0	2	0	3	0	1	5	3	2	0
	５０代	14	0	4	3	3	0	3	0	12	6	8	0
	６０代	18	0	5	5	1	2	4	0	8	3	18	2
	７０代以上	3	0	2	4	4	0	2	0	5	3	11	0
	無回答	9	0	1	2	2	0	1	0	2	1	2	0
	合計	67	3	14	19	11	5	11	1	39	19	51	2
職業	正規雇用者（正規の職員・従業者）	30	1	4	7	1	2	2	0	14	6	9	0
	非正規雇用者（パート・アルバイト）	10	2	3	2	1	0	1	0	3	3	6	2
	派遣社員、契約社員	6	0	1	2	1	1	1	1	4	2	2	0
	農林水産業（自営・家族従業者）	4	0	0	2	0	0	1	0	3	1	4	0
	商工・サービス業（自営・家族従業者）	4	0	0	0	1	1	1	0	2	0	1	0
	自由業	1	0	1	1	1	0	1	0	1	0	0	0
	家事従事者	0	0	2	1	1	0	0	0	4	1	3	0
	学生	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	0
	無職	2	0	2	2	3	1	2	0	5	5	18	0
	その他	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0
	無回答	9	0	1	2	2	0	1	0	2	1	2	0
	合計	67	3	14	19	11	5	11	1	39	19	51	2

問7 市の生涯学習関連施設（公民館、体育館、図書館など）を利用する上での問題点は何ですか。（○はいくつでも）

		回答数	構成比	前回調査
①	使える時間帯が希望と合わない	118	14.7%	17.4%
②	使える日時や曜日が希望と合わない	102	12.7%	13.1%
③	予約が取りにくい	23	2.9%	1.9%
④	利用に関する情報が乏しい	130	16.2%	15.6%
⑤	施設の場所が利用しづらい	15	1.9%	3.0%
⑥	利用料金が高い	18	2.2%	3.2%
⑦	サービスが悪い	13	1.6%	0.9%
⑧	希望する講座や教室がない	81	10.1%	10.7%
⑨	希望する展示・蔵書・資料がない	18	2.2%	1.9%
⑩	する必要がない	23	2.9%	3.2%
⑪	特に問題はない	186	23.2%	25.4%
⑫	その他	13	1.6%	3.5%
⑬	無回答	63	7.8%	—
	計	803	100.0%	



その他記述

・講座やサークル　（活動、募集）　の情報提供　（窓口及びホームページ）
・冷暖房費が高い。（複数回答有）
・使用するのに条件がある。
・簡単に手軽るに使えない。いつでも自由に使える施設があれば良い。
・余裕な時間が無い（複数回答有）
・現在、子育て中で自分の時間がない。
・管理人の方の対応が悪い。
・病気で利用できない。
・高齢のため。
・生涯学習をした事がないので、問題があるかないかもわからない。
・興味がないのでよくわからない。
・利用をした事がないのでわからない。
・よくわかりません。

【考察】

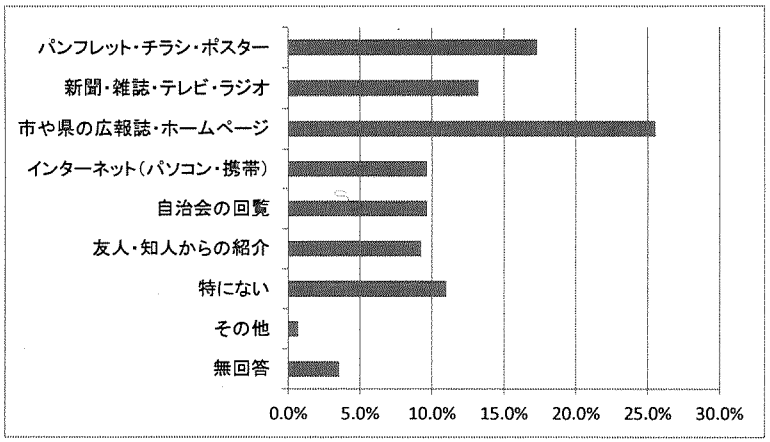
生涯学習関連施設を利用する上での問題点については、「特に問題はない」が最も多く、次に「利用に関する情報が乏しい」、3番目に「使える時間帯が希望と合わない」となりました。
多くの方が「特に問題はない」との回答もあるが、施設情報の発信や利用者のニーズの検討などが必要と思われます。

問7 市の生涯学習関連施設（公民館、体育館、図書館など）を利用する上での問題点は何ですか。（○はいくつでも）

属性	区分	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
性別	女性	60	61	8	54	10	7	4	52	6	7	90	6	30
	男性	48	36	13	65	5	10	7	26	11	16	87	7	25
	無回答	10	5	2	11	0	1	2	3	1	0	9	0	8
	合計	118	102	23	130	15	18	13	81	18	23	186	13	63
年齢	１０代	8	8	2	6	1	1	1	6	0	1	19	1	1
	２０代	13	10	3	12	1	4	2	5	4	3	18	1	4
	３０代	17	16	3	21	2	4	0	9	2	2	18	3	2
	４０代	21	16	7	21	2	5	4	15	4	3	21	2	3
	５０代	30	19	2	27	1	1	3	16	5	2	29	3	12
	６０代	18	25	1	25	8	2	0	23	1	11	47	2	19
	７０代以上	1	3	3	7	0	0	1	4	1	1	25	1	14
	無回答	10	5	2	11	0	1	2	3	1	0	9	0	8
	合計	118	102	23	130	15	18	13	81	18	23	186	13	63
職業	正規雇用者（正規の職員・従業者）	59	48	11	58	5	10	6	27	10	9	45	5	14
	非正規雇用者（パート・アルバイト）	19	18	2	14	1	1	1	12	1	0	24	2	10
	派遣社員、契約社員	5	3	1	5	1	0	0	4	0	2	4	1	0
	農林水産業（自営・家族従業者）	2	4	0	4	0	0	0	1	0	3	6	0	8
	商工・サービス業（自営・家族従業者）	2	1	1	5	0	0	0	3	0	1	8	1	2
	自由業	1	3	0	2	0	1	0	1	0	0	2	0	0
	家事従事者	3	4	2	7	3	2	0	13	2	0	17	1	5
	学生	12	8	2	7	2	2	2	6	1	0	26	1	1
	無職	3	7	2	11	3	1	1	10	1	8	39	2	15
	その他	2	1	0	6	0	0	1	1	2	0	6	0	0
	無回答	10	5	2	11	0	1	2	3	1	0	9	0	8
	合計	118	102	23	130	15	18	13	81	18	23	186	13	63

問8 あなたは、「生涯学習」に関する情報を、どのように得ていますか。（○はいくつでも）

		回答数	構成比	前回調査
①	パンフレット・チラシ・ポスター	170	17.3%	17.5%
②	新聞・雑誌・テレビ・ラジオ	130	13.2%	17.0%
③	市や県の広報誌・ホームページ	251	25.6%	28.3%
④	インターネット（パソコン・携帯）	95	9.7%	9.2%
⑤	自治会の回覧	95	9.7%	12.5%
⑥	友人・知人からの紹介	91	9.3%	9.3%
⑦	特にない	108	11.0%	5.5%
⑧	その他	7	0.7%	0.7%
⑨	無回答	35	3.6%	—
	計	982	100.0%	



その他記述

・職場。
・生涯学習はわからない。上記に記載した内容は少し経験したことがあるので記した。
・積極的に広報を見る人は情報を入手できるが興味や広報を見ない人は、（公民館、体育館）などの窓口に、活動状況、募集の案内一覧をされたほうが参加しやすく、口コミ効果も向上すると思われる。
・気にして見ていない。
・書店。
・参加している団体から。
・学校で。
・イベント。
・ほとんど情報開示されていないと思う。
・情報を得てない。

【考察】

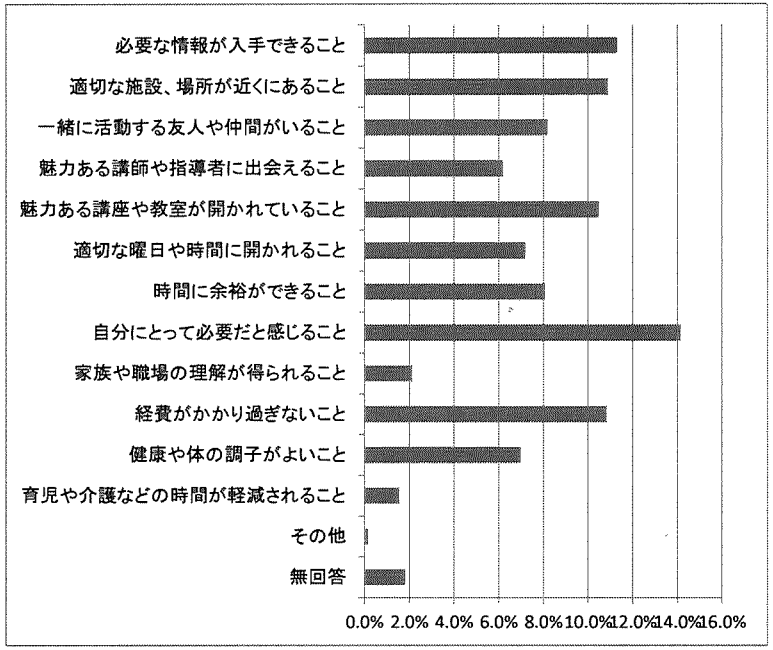
「生涯学習」に関する情報の入手方法については、「市や県の広報誌・ホームページ」が最も多く、次に「パンフレット・チラシ・ポスター」、3番目に「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」となっています。
前回のアンケートと同じ傾向にあり、今後も多様な手段で情報発信をおこなうとともに、情報化社会のなか、特にインターネット（パソコン・スマートフォン）を利用した情報発信を行っていくことが必要と思われます。

問8 あなたは、「生涯学習」に関する情報を、どのように得ていますか。（○はいくつでも）

属性	区分	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
性別	女性	103	71	142	39	43	60	46	3	13
	男性	61	50	96	49	44	27	56	4	17
	無回答	6	9	13	7	8	4	6	0	5
	合計	170	130	251	95	95	91	108	7	35
年齢	１０代	12	7	10	11	3	11	12	0	1
	２０代	11	7	13	14	4	12	18	1	4
	３０代	24	16	33	19	6	9	17	2	0
	４０代	24	24	36	21	8	12	13	1	4
	５０代	37	19	46	14	19	13	14	1	5
	６０代	47	36	77	7	34	20	17	1	7
	７０代以上	9	12	23	2	13	10	11	1	9
	無回答	6	9	13	7	8	4	6	0	5
	合計	170	130	251	95	95	91	108	7	35
職業	正規雇用者（正規の職員・従業者）	62	41	81	46	28	22	38	4	7
	非正規雇用者（パート・アルバイト）	29	19	44	7	9	12	11	0	6
	派遣社員、契約社員	4	5	7	0	4	2	6	0	1
	農林水産業（自営・家族従業者）	9	5	8	1	5	2	3	0	3
	商工・サービス業（自営・家族従業者）	2	5	12	0	7	3	2	0	1
	自由業	3	0	3	1	1	2	2	0	0
	家事従事者	15	16	28	7	9	15	3	1	2
	学生	11	8	11	17	4	15	14	1	1
	無職	24	19	40	7	18	11	19	1	8
	その他	5	3	4	2	2	3	4	0	1
	無回答	6	9	13	7	8	4	6	0	5
	合計	170	130	251	95	95	91	108	7	35

問9　あなたが、生涯学習活動を始めるための機会や条件として重視するものは何ですか。（○はいくつでも）

		回答数	構成比
①	必要な情報が入手できること	217	11.3%
②	適切な施設、場所が近くにあること	209	10.9%
③	一緒に活動する友人や仲間がいること	157	8.2%
④	魅力ある講師や指導者に出会えること	119	6.2%
⑤	魅力ある講座や教室が開かれていること	201	10.5%
⑥	適切な曜日や時間に開かれること	138	7.2%
⑦	時間に余裕ができること	155	8.1%
⑧	自分にとって必要だと感じること	271	14.1%
⑨	家族や職場の理解が得られること	41	2.1%
⑩	経費がかかり過ぎないこと	208	10.8%
⑪	健康や体の調子がよいこと	134	7.0%
⑫	育児や介護などの時間が軽減されること	30	1.6%
⑬	その他	3	0.2%
⑭	無回答	35	1.8%
	計	1918	100.0%



その他記述

・現在の所、働いていて時間が取れない。
・参加募集のＰＲ。
・まちづくりの魅力向上。
・市外の人も参加でき（志縁のコミュニティー）広がりとつながりの共有化が大切。
・ネットｅｔｃの手軽さ。

【考察】

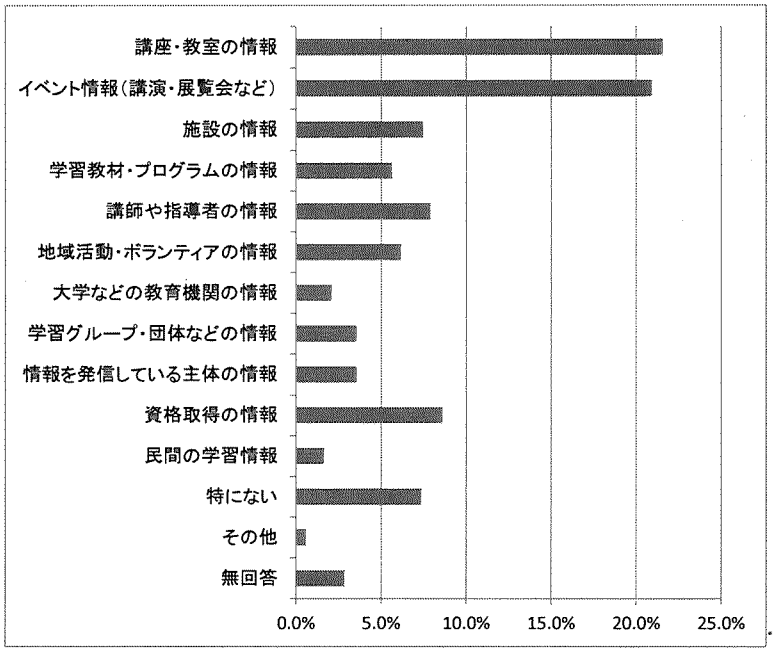
生涯学習を始めるための機会や条件として重視するものについては、「自分にとって必要だと感じること」が最も多く、次に「必要な情報が入手できること」、3番目に「適切な施設、場所が近くにあること」となっています。
多くの方が、自己向上のための生涯学習を希望されており、また、適切な情報発信が必要なことがうかがえます。そのほか、「経費がかかり過ぎないこと」も10．8％と高く、重要視されています。

問9　あなたが、生涯学習活動を始めるための機会や条件として重視するものは何ですか。（○はいくつでも）

属性	区分	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
性別	女性	109	128	79	66	107	78	73	138	22	127	81	18	0	14
	男性	98	76	69	41	79	53	70	117	16	69	45	10	2	17
	無回答	10	5	9	12	15	7	12	16	3	12	8	2	1	4
	合計	217	209	157	119	201	138	155	271	41	208	134	30	3	35
年齢	１０代	14	14	15	7	13	7	7	20	2	14	6	2	0	2
	２０代	29	21	16	13	16	15	10	31	3	24	5	5	0	2
	３０代	29	26	15	13	29	24	25	34	8	34	14	10	0	0
	４０代	33	41	18	14	32	26	31	32	17	33	16	6	1	1
	５０代	39	38	27	25	38	28	36	46	2	33	17	2	0	8
	６０代	51	47	40	27	46	27	25	72	5	49	48	3	0	6
	７０代以上	12	17	17	8	12	4	9	20	1	9	20	0	1	12
	無回答	10	5	9	12	15	7	12	16	3	12	8	2	1	4
	合計	217	209	157	119	201	138	155	271	41	208	134	30	3	35
職業	正規雇用者（正規の職員・従業者）	83	77	46	40	79	62	69	89	24	74	32	16	1	7
	非正規雇用者（パート・アルバイト）	31	31	25	17	27	23	28	37	6	30	18	3	0	4
	派遣社員、契約社員	5	6	4	6	4	3	4	14	0	6	5	0	0	1
	農林水産業（自営・家族従業者）	5	3	8	5	6	3	7	11	1	3	8	0	0	2
	商工・サービス業（自営・家族従業者）	6	3	5	3	4	2	7	8	1	3	4	1	0	3
	自由業	4	4	1	2	4	5	2	2	0	5	1	0	0	0
	家事従事者	18	24	12	14	21	14	4	25	3	25	16	3	0	1
	学生	21	21	22	9	16	10	14	25	2	21	7	2	0	1
	無職	27	33	22	9	19	7	7	40	1	27	33	1	1	12
	その他	7	2	3	2	6	2	1	4	0	2	2	2	0	0
	無回答	10	5	9	12	15	7	12	16	3	12	8	2	1	4
	合計	217	209	157	119	201	138	155	271	41	208	134	30	3	35

問10 あなたは、どのような「生涯学習」に関する情報を望みますか。（○はいくつでも）

		回答数	構成比	前回調査
①	講座・教室の情報	248	21.5%	22.6%
②	イベント情報（講演・展覧会など）	241	20.9%	19.5%
③	施設の情報	86	7.5%	9.6%
④	学習教材・プログラムの情報	65	5.6%	5.1%
⑤	講師や指導者の情報	91	7.9%	5.1%
⑥	地域活動・ボランティアの情報	71	6.2%	9.0%
⑦	大学などの教育機関の情報	24	2.1%	2.4%
⑧	学習グループ・団体などの情報	41	3.6%	3.9%
⑨	情報を発信している主体の情報	41	3.6%	3.0%
⑩	資格取得の情報	99	8.6%	9.3%
⑪	民間の学習情報	19	1.7%	3.8%
⑫	特にない	85	7.4%	6.3%
⑬	その他	7	0.6%	0.3%
⑭	無回答	33	2.9%	—
	計	1151	100.0%	



その他記述

・今は生涯学習に時間がない。
・講座、教室の情報は世代間の共有化　（子供から高齢者まで）、または志縁仲間づくりのＰＲ。
・活動している状況、楽しさをＰＲ。
・地域へ情報発信、発表。
・各個人の事例紹介。
・家族で一緒に暮らせばよい。
・育児に関する情報。
・費用。
・資格の取得（自治体独自のものでもかまわないと思う）就職やアルバイトｅｔｃに有効となる様なものならなおさら良いと思う。また、企業側も資格取得者の採用者数に応じ補助金を。

【考察】

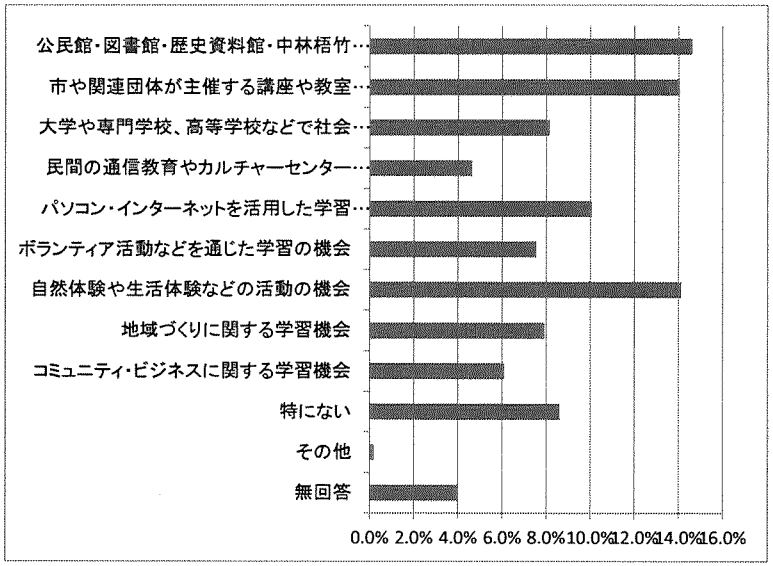
「生涯学習」に関する情報については、「講座・教室の情報」が最も多く、次に「イベント情報」、3番目に「資格取得の情報」となっています。
前回のアンケートと同じ傾向にあり、講座やイベントなどの情報を発信する必要があるとうかがえます。

問10 あなたは、どのような「生涯学習」に関する情報を望みますか。（○はいくつでも）

属性	区分	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
性別	女性	145	128	40	26	45	36	9	21	17	49	12	37	2	14
	男性	89	101	40	37	39	31	14	18	22	47	7	40	3	13
	無回答	14	12	6	2	7	4	1	2	2	3	0	8	2	6
	合計	248	241	86	65	91	71	24	41	41	99	19	85	7	33
年齢	１０代	12	16	4	5	4	5	3	1	1	13	0	6	0	2
	２０代	19	21	9	7	9	8	6	3	3	18	2	9	1	2
	３０代	25	32	10	5	11	6	3	4	3	22	3	12	0	2
	４０代	39	36	11	16	13	7	2	8	9	20	5	10	2	2
	５０代	59	48	13	12	20	12	3	4	6	13	4	10	1	5
	６０代	59	60	24	13	19	23	5	15	14	7	5	20	1	6
	７０代以上	21	16	9	5	8	6	1	4	3	3	0	10	0	8
	無回答	14	12	6	2	7	4	1	2	2	3	0	8	2	6
	合計	248	241	86	65	91	71	24	41	41	99	19	85	7	33
職業	正規雇用者（正規の職員・従業者）	94	86	29	26	38	24	10	11	12	41	8	27	3	8
	非正規雇用者（パート・アルバイト）	38	33	9	9	11	7	1	7	2	14	1	7	1	4
	派遣社員、契約社員	8	5	1	1	1	2	0	2	1	4	0	4	0	2
	農林水産業（自営・家族従業者）	8	7	4	2	3	2	0	2	2	1	2	3	0	3
	商工・サービス業（自営・家族従業者）	5	8	2	1	1	3	0	0	3	1	1	4	0	3
	自由業	4	3	1	2	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	家事従事者	22	26	9	6	9	11	2	6	6	9	2	5	0	1
	学生	14	22	6	7	6	5	7	2	1	17	0	7	0	1
	無職	35	34	18	7	12	10	3	8	11	5	5	18	1	5
	その他	6	5	1	2	2	3	0	1	1	3	0	2	0	0
	無回答	14	12	6	2	7	4	1	2	2	3	0	8	2	6
	合計	248	241	86	65	91	71	24	41	41	99	19	85	7	33

問11 あなたは、今後、どのような「生涯学習」の機会が増えればよいと思いますか。(○はいくつでも)

		回答数	構成比	前回調査
①	公民館・図書館・歴史資料館・中林梧竹記念館などを利用した学習機会	151	14.6%	15.0%
②	市や関連団体が主催する講座や教室などの学習機会	145	14.0%	19.1%
③	大学や専門学校、高等学校などで社会人を対象とした公開講座	84	8.1%	7.5%
④	民間の通信教育やカルチャーセンターなどを活用した学習機会	48	4.6%	7.2%
⑤	パソコン・インターネットを活用した学習機会	104	10.1%	12.1%
⑥	ボランティア活動などを通じた学習の機会	78	7.6%	7.5%
⑦	自然体験や生活体験などの活動の機会	146	14.1%	12.4%
⑧	地域づくりに関する学習機会	82	7.9%	8.2%
⑨	コミュニティ・ビジネスに関する学習機会	63	6.1%	3.1%
⑩	特にない	89	8.6%	7.3%
⑪	その他	2	0.2%	0.8%
⑫	無回答	41	4.0%	—
	計	1033	100.0%	



その他記述

・食育等
・国際交流イベント
・若い世代の希望が反映されたものや趣味
・学社融合

【考察】

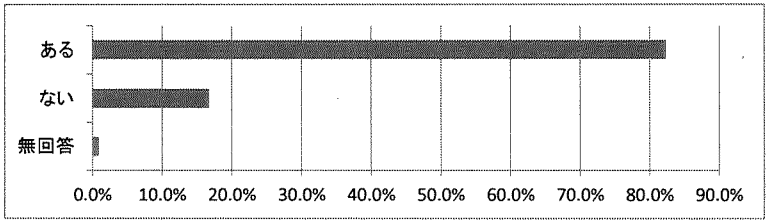
今後の「生涯学習」の機会については、「公民館・図書館・歴史資料館・中林梧竹記念館などを利用した学習機会」が最も多く、次に「自然体験や生活体験などの活動の機会」、3番目に「市や関連団体が主催する講座や教室などの学習機会」となっています。
前回のアンケートと同じ傾向にあり、民間の通信教育やカルチャーセンターなどを活用した学習よりも、行政や関連団体が主催する講座や教室が求められていることがうかがえます。

問11　あなたは、今後、どのような「生涯学習」の機会が増えればよいと思いますか。（○はいくつでも）

属性	区分	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
性別	女性	73	79	44	33	46	38	67	27	27	35	2	22
	男性	72	55	35	13	50	35	65	48	32	51	0	15
	無回答	6	11	5	2	8	5	14	7	4	3	0	4
	合計	151	145	84	48	104	78	146	82	63	89	2	41
年齢	１０代	9	7	10	2	8	11	13	3	6	6	0	1
	２０代	9	9	13	2	9	8	17	5	9	10	1	4
	３０代	16	16	10	7	15	3	16	7	14	15	0	1
	４０代	25	18	18	10	18	11	23	15	15	8	0	5
	５０代	30	32	11	13	22	11	18	14	7	16	0	3
	６０代	42	38	16	12	21	22	33	20	8	19	1	14
	７０代以上	14	14	1	0	3	7	12	11	0	12	0	9
	無回答	6	11	5	2	8	5	14	7	4	3	0	4
	合計	151	145	84	48	104	78	146	82	63	89	2	41
職業	正規雇用者（正規の職員・従業者）	54	50	38	25	42	25	46	29	34	25	0	7
	非正規雇用者（パート・アルバイト）	18	21	10	10	15	8	14	4	6	10	0	6
	派遣社員、契約社員	4	4	1	2	5	1	3	0	0	6	0	1
	農林水産業（自営・家族従業者）	3	4	1	0	2	3	6	5	1	5	0	5
	商工・サービス業（自営・家族従業者）	2	2	3	1	3	3	3	1	3	4	1	2
	自由業	2	3	1	0	0	1	2	3	1	1	0	0
	家事従事者	20	16	5	5	5	8	16	7	1	6	0	3
	学生	11	9	14	2	10	10	18	5	7	8	1	3
	無職	28	21	5	1	10	11	20	17	2	19	0	10
	その他	3	4	1	0	4	3	4	4	4	2	0	0
	無回答	6	11	5	2	8	5	14	7	4	3	0	4
	合計	151	145	84	48	104	78	146	82	63	89	2	41

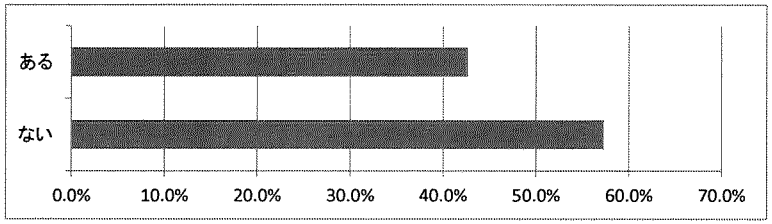
問12　あなたは、美術館、博物館などの展示会を見学したことがありますか。（ひとつに○）

	回答数	構成比	前回調査
①　ある	453	82.4%	84.9%
②　ない	92	16.7%	14.0%
③　無回答	5	0.9%	1.2%
計	550	100.0%	



【問12で1と回答した方のみお答えください】
問13　あなたは、小城市立歴史資料館、中林梧竹記念館の展示会を見学したことがありますか。（ひとつに○）

	回答数	構成比	前回調査
①　ある	204	42.7%	49.4%
②　ない	274	57.3%	49.9%
計	478	100.0%	



【考察】

前回のアンケートよりも「ない」と回答した方が49．9%から57．3%と多くなっており、今後さらに展示会の内容を広報紙、ホームページなどの電子媒体や報道機関等により情報発信していくことが必要と思われます。

問12　あなたは、美術館、博物館などの展示会を見学したことがありますか。（ひとつに○）

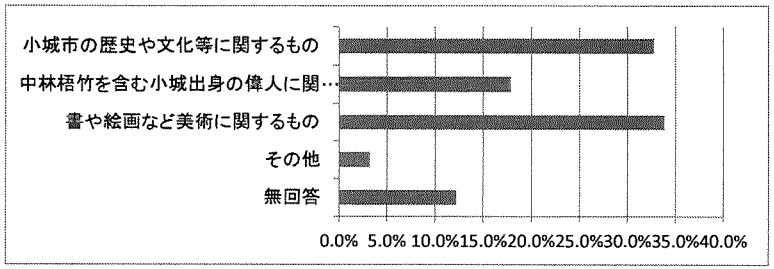
属性	区分	①	②	③
性別	女性	234	39	2
	男性	191	47	3
	無回答	28	6	0
	合計	453	92	5
年齢	１０代	27	8	0
	２０代	43	11	0
	３０代	45	19	0
	４０代	64	10	0
	５０代	89	10	1
	６０代	116	17	1
	７０代以上	41	11	3
	無回答	28	6	0
	合計	453	92	5
職業	正規雇用者（正規の職員・従業者）	152	31	0
	非正規雇用者（パート・アルバイト）	61	13	0
	派遣社員、契約社員	16	2	0
	農林水産業（自営・家族従業者）	16	5	1
	商工・サービス業（自営・家族従業者）	16	2	1
	自由業	5	2	0
	家事従事者	42	3	0
	学生	39	8	0
	無職	67	17	3
	その他	11	3	0
	無回答	28	6	0
	合計	453	92	5

【問12で1と回答した方のみお答えください】
問13　あなたは、小城市立歴史資料館、中林梧竹記念館の展示会を見学したことがありますか。（ひとつに○）

属性	区分	①	②
性別	女性	102	141
	男性	91	113
	無回答	11	20
	合計	204	274
年齢	１０代	22	7
	２０代	14	30
	３０代	15	35
	４０代	15	52
	５０代	40	52
	６０代	63	56
	７０代以上	24	22
	無回答	11	20
	合計	204	274
職業	正規雇用者（正規の職員・従業者）	58	100
	非正規雇用者（パート・アルバイト）	21	42
	派遣社員、契約社員	4	12
	農林水産業（自営・家族従業者）	7	14
	商工・サービス業（自営・家族従業者）	5	12
	自由業	5	1
	家事従事者	17	26
	学生	27	14
	無職	41	30
	その他	8	3
	無回答	11	20
	合計	204	274

問14 あなたは、小城市立歴史資料館、中林梧竹記念館で今後どのような展示会の企画を望まれますか。（○はいくつでも）

		回答数	構成比	前回調査
①	小城市の歴史や文化等に関するもの	244	32.8%	34.8%
②	中林梧竹を含む小城出身の偉人に関するもの	133	17.9%	22.5%
③	書や絵画など美術に関するもの	252	33.9%	38.9%
④	その他	24	3.2%	3.9%
⑤	無回答	91	12.2%	―
	計	744	100.0%	



問14記述 その他記述

・若い世代も興味を持つようにカフェなど「食」とコラボした展示会。
・若い世代にもウケのいい企画。新しい分野。
・展示会の内容がかたよっている。【書など・・・】　様々なものに取り組んでほしい。
・上記以外の展示もあると良いと思います。
・読書感想文等。
・まちなか散策による歴史、文化の探究、プログラム。
・これからの世代の育成のため、子どもが興味を示す企画を望む。
・若いアーティストの作品。
・小城市と関係する都市の展示。
・書にふれやすい、書に興味がわくような大人の書道教室などできればありがたいです。
・前回展示された様な絵画展「青木繁」の名画をもう一度企画してほしい。
・戦時中に空港があると聞いた事がある。
・市に限らず、日本や世界に関するものを含めた幅広いもの。
・子ども・大人の感性を豊かにするような内容の展示。
・中林梧竹記念館の観覧料が高いので行けない。
・場所が知らない。
・わからない。（複数回答有）
・特にない。（複数回答有）
・あまり興味ない。
・あまり期待も興味もありません。

【考察】

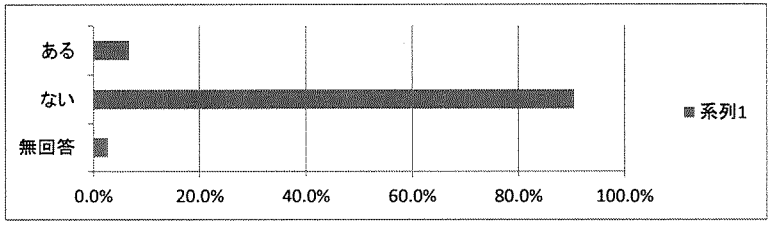
今後の展示会の企画については、「書や絵画などの美術に関するもの」が最も多く、次に「小城市の歴史や文化等に関するもの」、3番目に「中林梧竹を含む小城出身の偉人に関するもの」となっています。
前回のアンケートと同じ傾向にありますが、その他記述において、若い世代も興味を持つような企画を望む声があります。

問14 あなたは、小城市立歴史資料館、中林梧竹記念館で今後どのような展示会の企画を望まれますか。（○はいくつでも）

属性	区分	①	②	③	④	⑤
性別	女性	106	69	150	11	41
	男性	127	60	88	11	40
	無回答	11	4	14	2	10
	合計	244	133	252	24	91
年齢	１０代	15	13	19	2	0
	２０代	18	7	28	3	10
	３０代	26	5	29	4	10
	４０代	31	19	40	6	8
	５０代	50	26	49	4	13
	６０代	65	37	61	2	26
	７０代以上	28	22	12	1	14
	無回答	11	4	14	2	10
	合計	244	133	252	24	91
職業	正規雇用者（正規の職員・従業者）	89	36	86	9	23
	非正規雇用者（パート・アルバイト）	30	16	38	3	12
	派遣社員、契約社員	7	4	10	1	3
	農林水産業（自営・家族従業者）	10	7	6	0	5
	商工・サービス業（自営・家族従業者）	5	4	5	1	8
	自由業	4	2	4	1	0
	家事従事者	18	12	24	0	7
	学生	19	13	26	3	3
	無職	44	28	33	3	18
	その他	7	7	6	1	2
	無回答	11	4	14	2	10
	合計	244	133	252	24	91

問15 あなたは、小城市立歴史資料館、中林梧竹記念館での講座・講演会に参加したことがありますか。(ひとつに○)

	回答数	構成比	前回調査
① ある	37	6.7%	8.8%
② ない	498	90.5%	88.7%
③ 無回答	15	2.7%	2.5%
計	550	100.0%	



【考察】

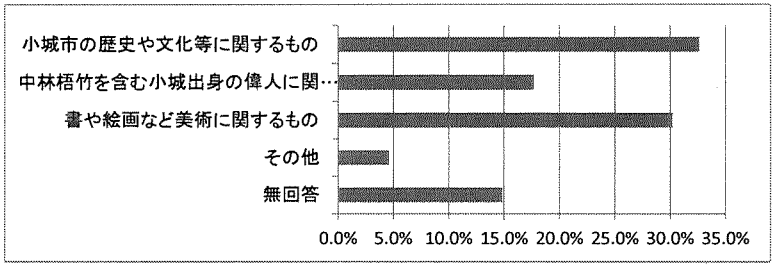
「参加したことがない」という割合が高く、今後さらに講座・講演会の内容の検討や情報を発信していくことが必要と思われます。

問15　あなたは、小城市立歴史資料館、中林梧竹記念館での講座・講演会に参加したことがありますか。（ひとつに○）

属性	区分	①	②	③
性別	女性	13	256	6
	男性	19	213	9
	無回答	5	29	0
	合計	37	498	15
年齢	１０代	2	33	0
	２０代	1	52	1
	３０代	1	61	2
	４０代	4	70	0
	５０代	4	94	2
	６０代	13	116	5
	７０代以上	7	43	5
	無回答	5	29	0
	合計	37	498	15
職業	正規雇用者（正規の職員・従業者）	8	172	3
	非正規雇用者（パート・アルバイト）	2	70	2
	派遣社員、契約社員	0	17	1
	農林水産業（自営・家族従業者）	1	20	1
	商工・サービス業（自営・家族従業者）	1	17	1
	自由業	0	7	0
	家事従事者	5	40	0
	学生	2	45	0
	無職	10	70	7
	その他	3	11	0
	無回答	5	29	0
	合計	37	498	15

問16 あなたは、小城市立歴史資料館、中林梧竹記念館で今後どのような講座・講演会の開催を望まれますか。(○はいくつでも)

		回答数	構成比	前回調査
①	小城市の歴史や文化等に関するもの	242	32.7%	37.9%
②	中林梧竹を含む小城出身の偉人に関するもの	131	17.7%	22.5%
③	書や絵画など美術に関するもの	224	30.2%	35.9%
④	その他	34	4.6%	3.7%
⑤	無回答	110	14.8%	—
	計	741	100.0%	



その他記述

・若い世代も興味を持つようにカフェなど「食」とコラボした展示会。
・若い人が興味や関心を感じるもの。
・文化、教養講座を充実させてほしい。梧竹さんばかりでなく。
・読書会。
・梧竹書道体験。
・世相に合ったもの。
・親子で楽しめるようなもの。
・クラフト等。
・これからの世代の育成のため、子どもが興味を示す企画を望む。
・小城市と他の地域、文化等関係があるもの。市外と文化交流等が生まれるもの。
・佐賀新聞にのってることは知っている。
・場所が遠いし、身近に感じられない。小城町の方たちはいいのでしょうけど。
・講座・講演　無理に開催しなくても、別の角度から施設利用を考えてほしい。
・戦時中に空港があると聞いた事がある。
・無料なら行ってみたい。
・たぶん参加しないと思う。
・場所がわからないから行けません。
・特になし。（複数回答有）
・わからない。（複数回答有）

【考察】

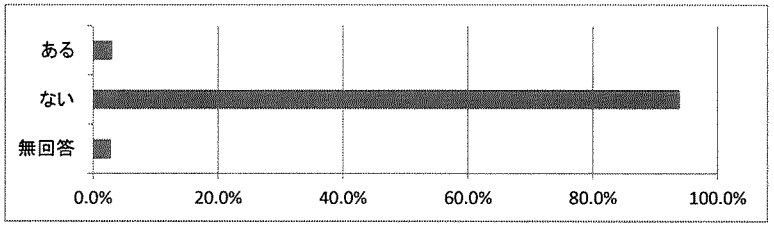
今後の講座・講演会の開催については、「小城市の歴史や文化等に関するもの」が最も多く、次に「書や絵画など美術に関するもの」、3番目に「中林梧竹を含む小城出身の偉人に関するもの」となっています。
問14と同様に、その他記述において、前回には無い若い世代も興味を持つ企画を望む声があります。

問16　あなたは、小城市立歴史資料館、中林梧竹記念館で今後どのような講座・講演会の開催を望まれますか。（○はいくつでも）

属性	区分	①	②	③	④	⑤
性別	女性	104	67	133	18	48
	男性	126	59	79	15	49
	無回答	12	5	12	1	13
	合計	242	131	224	34	110
年齢	１０代	15	11	17	2	0
	２０代	21	9	24	5	11
	３０代	26	10	27	4	12
	４０代	36	20	36	6	10
	５０代	45	24	42	7	17
	６０代	62	36	54	8	30
	７０代以上	25	16	12	1	17
	無回答	12	5	12	1	13
	合計	242	131	224	34	110
職業	正規雇用者（正規の職員・従業者）	87	38	80	16	29
	非正規雇用者（パート・アルバイト）	30	13	33	3	15
	派遣社員、契約社員	8	6	6	1	3
	農林水産業（自営・家族従業者）	7	9	5	0	6
	商工・サービス業（自営・家族従業者）	7	1	5	3	6
	自由業	3	1	4	1	1
	家事従事者	19	13	25	1	8
	学生	22	11	22	4	4
	無職	44	28	28	4	21
	その他	3	6	4	0	4
	無回答	12	5	12	1	13
	合計	242	131	224	34	110

問17　あなたは、梧竹デジタルミュージアムを閲覧されたことがありますか。（ひとつに○）

	回答数	構成比
①　ある	17	3.1%
②　ない	517	94.0%
③　無回答	16	2.9%
計	550	100.0%

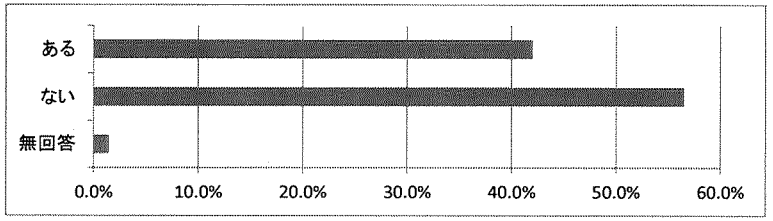


【考察】

「閲覧したことがない」という人の割合が高く、認知度を高めるため、さまざまな機会を通じて情報を発信していくことが必要と思われます。

問18　あなたは、最近一年間に小城市民図書館（小城館・三日月館・牛津分室・芦刈分室・自動車図書館）を利用したことがありますか。（ひとつに○）

	回答数	構成比	前回調査
①　ある	231	42.0%	45.6%
②　ない	311	56.5%	52.6%
③　無回答	8	1.5%	1.8%
計	550	100.0%	



【考察】

前回のアンケートよりも「ある」と答えた方が45．6%から42．%と減少しており、今後利用者の増加を図る方法を検討する必要があると思われます。

問17　あなたは、梧竹デジタルミュージアムを閲覧されたことがありますか。（ひとつに○）

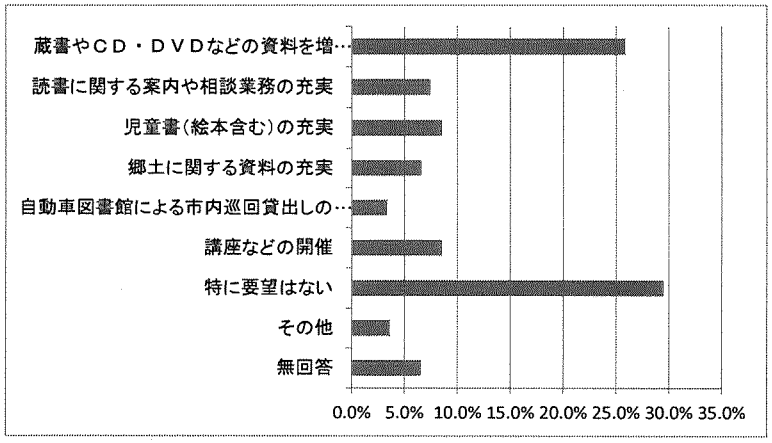
属性	区分	①	②	③
性別	女性	6	261	8
	男性	10	224	7
	無回答	1	32	1
	合計	17	517	16
年齢	１０代	2	33	0
	２０代	1	51	2
	３０代	0	63	1
	４０代	3	71	0
	５０代	0	99	1
	６０代	7	122	5
	７０代以上	3	46	6
	無回答	1	32	1
	合計	17	517	16
職業	正規雇用者（正規の職員・従業者）	5	177	1
	非正規雇用者（パート・アルバイト）	3	68	3
	派遣社員、契約社員	0	17	1
	農林水産業（自営・家族従業者）	0	21	1
	商工・サービス業（自営・家族従業者）	0	18	1
	自由業	1	6	0
	家事従事者	1	44	0
	学生	2	45	0
	無職	4	75	8
	その他	0	14	0
	無回答	1	32	1
	合計	17	517	16

問18　あなたは、最近一年間に小城市民図書館（小城館・三日月館・牛津分室・芦刈分室・自動車図書館）を利用したことがありますか。（ひとつに○）

属性	区分	①	②	③
性別	女性	126	146	3
	男性	94	143	4
	無回答	11	22	1
	合計	231	311	8
年齢	１０代	18	17	0
	２０代	24	29	1
	３０代	32	31	1
	４０代	42	32	0
	５０代	36	63	1
	６０代	54	79	1
	７０代以上	14	38	3
	無回答	11	22	1
	合計	231	311	8
職業	正規雇用者（正規の職員・従業者）	82	100	1
	非正規雇用者（パート・アルバイト）	29	44	1
	派遣社員、契約社員	6	12	0
	農林水産業（自営・家族従業者）	5	17	0
	商工・サービス業（自営・家族従業者）	3	15	1
	自由業	2	5	0
	家事従事者	26	19	0
	学生	26	21	0
	無職	34	49	4
	その他	7	7	0
	無回答	11	22	1
	合計	231	311	8

問19 あなたは、小城市民図書館に対してどんな要望がありますか。（○はいくつでも）

		回答数	構成比	前回調査
①	蔵書やＣＤ・ＤＶＤなどの資料を増やす	185	25.9%	28.8%
②	読書に関する案内や相談業務の充実	53	7.4%	9.2%
③	児童書（絵本含む）の充実	61	8.5%	8.8%
④	郷土に関する資料の充実	47	6.6%	9.8%
⑤	自動車図書館による市内巡回貸出しの実施	24	3.4%	2.8%
⑥	講座などの開催	61	8.5%	12.4%
⑦	特に要望はない	211	29.5%	22.6%
⑧	その他	26	3.6%	5.7%
⑨	無回答	47	6.6%	—
	計	715	100.0%	



その他記述（集約）

・コーヒーショップを設ける、購入できる本や雑貨の充実。
・カフェの併設。（複数回答有）
・施設の一元化。
・図書館と介護施設の両方が一緒になるように望みたいです。
・寝て本をよめるスペースがあったらいい。
・学習スペースの改善拡充。（複数回答有）
・静かな空間。（複数回答有）
・郷土に関する図書が郷土で貸し出し出来ていない状況を改善してほしい。
・蔵書の充実。（医学書、流行、新書、推理小説、編み物の本）
・ＨＰにて蔵書の有無・貸出状況等が確認できる。
・通行量実施後の開示資料。
・閉館時間の延長（複数回答有）
・休みが多い。
・読み聞かせサークル支援。
・自動車図書館による市内巡回貸し出しは継続。
・足が悪いから近くまで来てもらったら助かります。
・ＣＤにキズがあり聞きづらかったのでキズを取ってから貸し出すか、破棄するかしてほしい。
・図書館職員で図書館や本に関係ない話をして爆笑するな。利用者のことを考えて仕事をするべき。
・愛想。
・何ひとつ魅力がない。小さすぎる。武雄のような図書館を希望する。
・場所を知らなくて行ったことがないので要望はわかりません。

【考察】

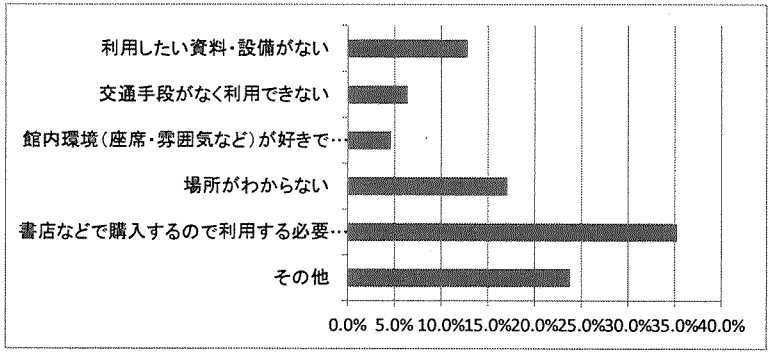
小城市民図書館への要望については、「特に要望はない」が最も多く、次に「蔵書やCD・DVDなどの資料を増やす」、3番目に「児童書の充実」「講座などの開催」となっています。
前回のアンケートより「特に要望はない」22．6%→29．5%となっており、利用者の満足度は高くなっていると考えられます。
また、その他記述では、カフェの併設や学習スペースの拡充などの意見が多くみられ、施設の充実や複合化を望んでいることがうかがえます。
そのほか、開館時間の延長や運営面の意見がありました。

問19　あなたは、小城市民図書館に対してどんな要望がありますか。（○はいくつでも）

属性	区分	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
性別	女性	90	22	33	7	11	32	111	15	28
	男性	90	28	22	39	10	25	88	8	15
	無回答	5	3	6	1	3	4	12	3	4
	合計	185	53	61	47	24	61	211	26	47
年齢	１０代	22	7	0	0	2	4	10	1	1
	２０代	22	4	6	1	2	3	20	6	5
	３０代	19	3	16	4	5	8	23	3	3
	４０代	38	7	13	7	3	8	21	5	4
	５０代	40	9	7	11	2	14	39	4	5
	６０代	31	14	12	16	4	18	60	2	14
	７０代以上	8	6	1	7	3	2	26	2	11
	無回答	5	3	6	1	3	4	12	3	4
	合計	185	53	61	47	24	61	211	26	47
職業	正規雇用者（正規の職員・従業者）	83	16	29	20	10	23	51	14	12
	非正規雇用者（パート・アルバイト）	24	7	11	7	3	7	29	1	7
	派遣社員、契約社員	7	0	0	0	0	1	10	0	1
	農林水産業（自営・家族従業者）	2	3	0	3	0	2	11	2	1
	商工・サービス業（自営・家族従業者）	1	2	1	3	0	3	10	0	2
	自由業	2	0	0	0	0	1	4	1	0
	家事従事者	14	7	7	2	1	9	17	2	4
	学生	24	6	0	0	2	4	18	2	2
	無職	18	7	6	8	5	6	43	1	14
	その他	5	2	1	3	0	1	6	0	0
	無回答	5	3	6	1	3	4	12	3	4
	合計	185	53	61	47	24	61	211	26	47

【問18で2と回答した方のみお答えください】
問20　小城市民図書館を利用しなかった理由はなんですか。（○はいくつでも）

		回答数	構成比	前回調査
①	利用したい資料・設備がない	36	12.8%	8.4%
②	交通手段がなく利用できない	18	6.4%	2.7%
③	館内環境（座席・雰囲気など）が好きではない	13	4.6%	3.3%
④	場所がわからない	48	17.1%	11.7%
⑤	書店などで購入するので利用する必要はない	99	35.2%	38.9%
⑥	その他	67	23.8%	35.1%
	計	281	100.0%	



その他記述

・機会がない。（複数回答有）
・時間がない。（複数回答有）
・利用する必要がない。（複数回答有）
・会社帰りに寄りたくても閉館時間がせまってるから…。
・以前は子どもたちと一緒に利用していたが学校で借りてくるようになった。
・以前利用した際の愛想が悪かったため、市外の図書館を利用した。
・佐賀市の図書館を利用。
・インターネット利用増加。
・最近読む時間がない、雑誌はｉｐａｄで読んでいる。
・専門的なジャンルの新刊が少ない。
・子どもが騒いでも注意しない。騒いだら退出させる位必要。
・５年ほど前に何回か利用、イスに座ってリラックスしていたら、注意されたのでそれ以来使っていない。
・自分が希望する書物とガッチするものがない。
・以前利用した時に職員の方の対応があまりよくなかったから。

【考察】

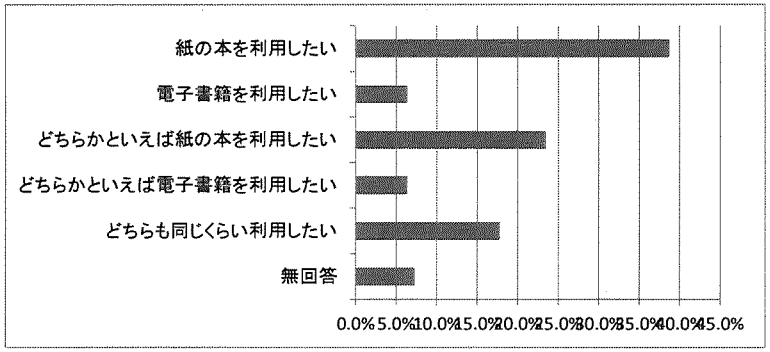
小城市民図書館を利用しなかった理由としては、「書店などで購入するので利用する必要はない」が最も多く、次に「場所がわからない」、３番目に「利用したい資料・設備がない」となっています。
前回のアンケートと同じ傾向となっており、その他記述からは「機会がない」「時間がない」「利用する必要がない」という意見が多くみられました。

【問18で2と回答した方のみお答えください】
問20　小城市民図書館を利用しなかった理由はなんですか。（○はいくつでも）

属性	区分	①	②	③	④	⑤	⑥
性別	女性	14	13	3	18	51	33
	男性	20	4	8	26	43	31
	無回答	2	1	2	4	5	3
	合計	36	18	13	48	99	67
年齢	１０代	3	2	1	2	7	3
	２０代	9	0	2	4	10	8
	３０代	3	1	1	11	6	8
	４０代	6	0	2	5	14	5
	５０代	9	0	2	7	24	14
	６０代	1	5	3	11	25	20
	７０代以上	3	9	0	4	8	6
	無回答	2	1	2	4	5	3
	合計	36	18	13	48	99	67
職業	正規雇用者（正規の職員・従業者）	22	1	6	20	28	25
	非正規雇用者（パート・アルバイト）	2	1	1	4	15	12
	派遣社員、契約社員	1	0	1	3	7	1
	農林水産業（自営・家族従業者）	0	0	0	4	7	2
	商工・サービス業（自営・家族従業者）	2	0	0	1	5	4
	自由業	0	0	0	1	1	2
	家事従事者	1	4	1	5	5	3
	学生	1	2	1	1	10	5
	無職	5	9	1	5	13	7
	その他	0	0	0	0	3	3
	無回答	2	1	2	4	5	3
	合計	36	18	13	48	99	67

問21　近年、紙の印刷物ではなく、パソコンや携帯電話などで読める形にした電子書籍がありますが、あなたは、今後、紙の本と電子書籍、どちらの方を利用したいと思いますか。（ひとつに○）

		回答数	構成比	前回調査
①	紙の本を利用したい	213	38.7%	47.5%
②	電子書籍を利用したい	35	6.4%	5.9%
③	どちらかといえば紙の本を利用したい	129	23.5%	23.8%
④	どちらかといえば電子書籍を利用したい	35	6.4%	3.4%
⑤	どちらも同じくらい利用したい	98	17.8%	15.1%
⑥	無回答	40	7.3%	4.3%
	計	550	100.0%	

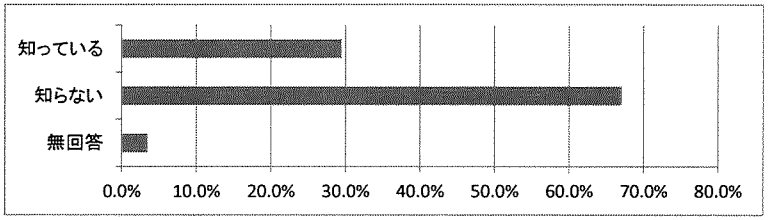


【考察】

今後、紙の本と電子書籍、どちらの方を利用したいかについては、「紙の本を利用したい」が最も多く、次に「どちらかといえば紙の本を利用したい」、３番目に「どちらも同じくらい利用したい」となっています。
前回のアンケートも同じ傾向ではありますが、「紙の本を利用したい」が４７．５％から３８．７％と８．８％少なくなり、電子書籍を利用したいという方も多くなっていることがうかがえます。

問22　あなたは、小城市民図書館にない資料を国立国会図書館や、県内外の図書館からも借りられることを御存知ですか。（ひとつに○）

		回答数	構成比
①	知っている	162	29.5%
②	知らない	368	67.0%
③	無回答	19	3.5%
	計	549	100.0%



【考察】

相互賃借の認知度を高めるため、情報を発信していくことが必要であると思われます。

問21　近年、紙の印刷物ではなく、パソコンや携帯電話などで読める形にした電子書籍がありますが、あなたは、今後、紙の本と電子書籍、どちらの方を利用したいと思いますか。（ひとつに○）

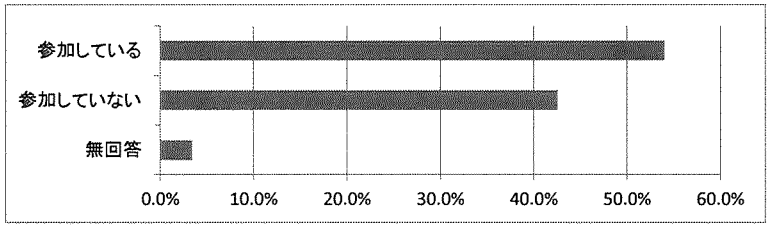
属性	区分	①	②	③	④	⑤	⑥
性別	女性	111	9	71	17	46	21
	男性	86	24	53	16	47	15
	無回答	16	2	5	2	5	4
	合計	213	35	129	35	98	40
年齢	１０代	13	3	4	3	12	0
	２０代	9	8	13	5	16	3
	３０代	19	5	14	10	16	0
	４０代	25	3	23	3	19	1
	５０代	36	8	29	5	17	5
	６０代	67	5	31	7	10	14
	７０代以上	28	1	10	0	3	13
	無回答	16	2	5	2	5	4
	合計	213	35	129	35	98	40
職業	正規雇用者（正規の職員・従業者）	57	17	48	16	36	9
	非正規雇用者（パート・アルバイト）	29	3	22	5	11	4
	派遣社員、契約社員	9	1	3	2	3	0
	農林水産業（自営・家族従業者）	7	2	4	0	4	5
	商工・サービス業（自営・家族従業者）	9	2	3	0	2	3
	自由業	3	0	2	1	1	0
	家事従事者	23	0	15	2	4	1
	学生	13	5	7	4	17	1
	無職	44	2	18	1	10	12
	その他	3	1	2	2	5	1
	無回答	16	2	5	2	5	4
	合計	213	35	129	35	98	40

問22　あなたは、小城市民図書館にない資料を国立国会図書館や、県内外の図書館からも借りられることを御存知ですか。（ひとつに○）

属性	区分	①	②	③
性別	女性	82	184	9
	男性	70	160	10
	無回答	10	24	0
	合計	162	368	19
年齢	１０代	11	24	0
	２０代	18	35	1
	３０代	17	47	0
	４０代	24	50	0
	５０代	33	64	3
	６０代	34	89	10
	７０代以上	15	35	5
	無回答	10	24	0
	合計	162	368	19
職業	正規雇用者（正規の職員・従業者）	55	123	5
	非正規雇用者（パート・アルバイト）	17	55	2
	派遣社員、契約社員	8	10	0
	農林水産業（自営・家族従業者）	5	13	3
	商工・サービス業（自営・家族従業者）	3	15	1
	自由業	4	3	0
	家事従事者	14	30	1
	学生	14	32	1
	無職	25	56	6
	その他	7	7	0
	無回答	10	24	0
	合計	162	368	19

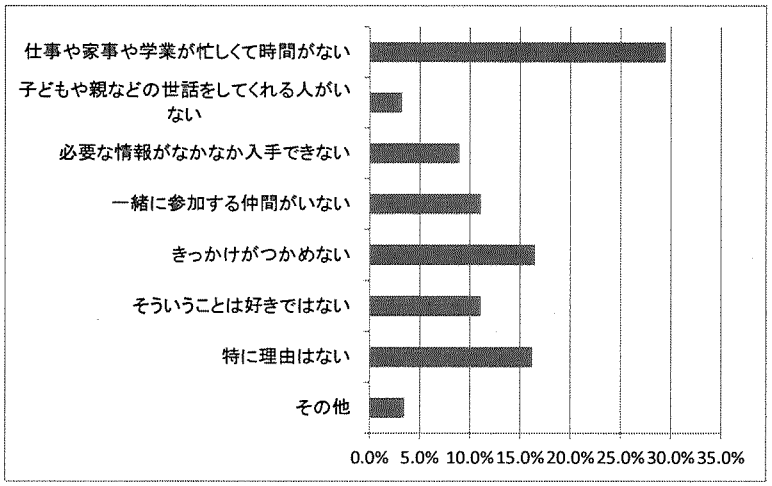
問23　あなたは、地域の行事や活動に参加していますか。（ひとつに○）

		回答数	構成比
①	参加している	297	54.0%
②	参加していない	234	42.5%
③	無回答	19	3.5%
	計	550	100.0%



【問23で2と回答した方のみお答えください】
問24　参加していない理由は何ですか。（○はいくつでも）

		回答数	構成比
①	仕事や家事や学業が忙しくて時間がない	109	29.5%
②	子どもや親などの世話をしてくれる人がいない	12	3.2%
③	必要な情報がなかなか入手できない	33	8.9%
④	一緒に参加する仲間がいない	41	11.1%
⑤	きっかけがつかめない	61	16.5%
⑥	そういうことは好きではない	41	11.1%
⑦	特に理由はない	60	16.2%
⑧	その他	13	3.5%
	計	370	100.0%



その他記述

・単身赴任だから。
・県外で生活しているから。
・転勤してきたばかり。
・最近きたので。
・高齢のため。（複数回答有）
・身体が不自由で出来ない。（複数回答有）
・体調がその日によって波がある為。
・部活動があって行けない。
・村の中で新参者はなじみ難い。（村の人だけで固まる）
・いつも毎年行われているものが多く、参加する意欲がわかない。

【考察】

地域の行事や活動に参加していない理由としては、「仕事や家事や学業が忙しくて時間がない」が最も多く、次に「きっかけがつかめない」、３番目に「特に理由はない」となっています。
その他記述では、「高齢のため」「体が不自由で出来ない」との意見が多く、年齢的、身体的に参加が難しい状況があり、地域のネットワークづくりやきっかけづくりが必要であると思われます。

問23　あなたは、地域の行事や活動に参加していますか。（ひとつに○）

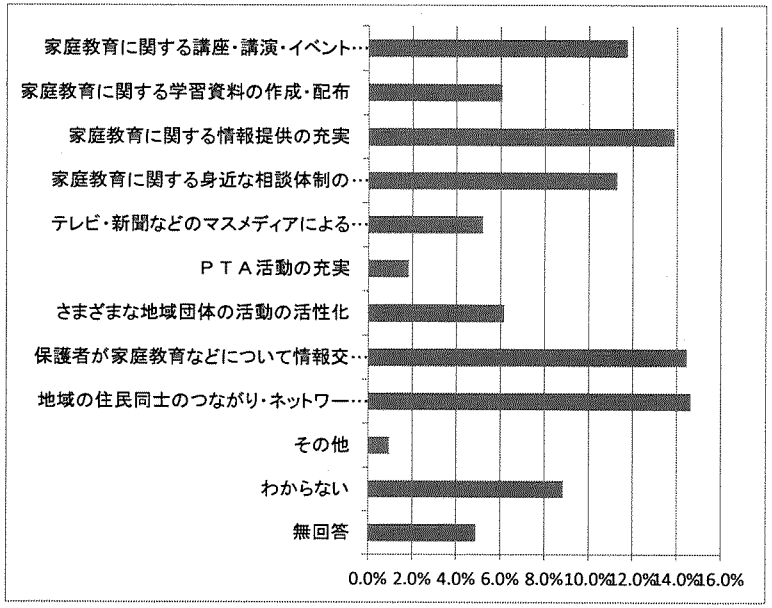
属性	区分	①	②	③
性別	女性	143	124	8
	男性	133	98	10
	無回答	21	12	1
	合計	297	234	19
年齢	１０代	8	27	0
	２０代	17	36	1
	３０代	30	34	0
	４０代	45	29	0
	５０代	68	29	3
	６０代	77	47	10
	７０代以上	31	20	4
	無回答	21	12	1
	合計	297	234	19
職業	正規雇用者（正規の職員・従業者）	98	80	5
	非正規雇用者（パート・アルバイト）	33	37	4
	派遣社員、契約社員	9	9	0
	農林水産業（自営・家族従業者）	19	0	3
	商工・サービス業（自営・家族従業者）	14	4	1
	自由業	4	3	0
	家事従事者	29	16	0
	学生	13	33	1
	無職	47	36	4
	その他	10	4	0
	無回答	21	12	1
	合計	297	234	19

【問23で2と回答した方のみお答えください】
問24　参加していない理由は何ですか。（○はいくつでも）

属性	区分	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
性別	女性	53	8	15	24	32	23	30	6
	男性	48	3	15	17	24	16	28	7
	無回答	8	1	3	0	5	2	2	0
	合計	109	12	33	41	61	41	60	13
年齢	１０代	14	0	3	5	3	3	6	2
	２０代	21	2	7	4	13	4	7	2
	３０代	23	6	4	7	8	6	7	1
	４０代	14	1	4	6	6	7	5	1
	５０代	12	1	4	7	8	9	5	2
	６０代	15	1	7	9	16	8	14	2
	７０代以上	2	0	1	3	2	2	14	3
	無回答	8	1	3	0	5	2	2	0
	合計	109	12	33	41	61	41	60	13
職業	正規雇用者（正規の職員・従業者）	52	6	12	11	20	16	15	4
	非正規雇用者（パート・アルバイト）	18	2	7	13	10	6	7	1
	派遣社員、契約社員	3	0	2	4	3	3	1	0
	農林水産業（自営・家族従業者）	0	0	0	0	0	0	0	0
	商工・サービス業（自営・家族従業者）	1	0	0	0	1	2	3	0
	自由業	2	0	1	2	1	1	0	1
	家事従事者	3	3	2	1	8	2	5	0
	学生	17	0	4	5	4	2	8	3
	無職	4	0	2	5	8	7	18	3
	その他	1	0	0	0	1	0	1	1
	無回答	8	1	3	0	5	2	2	0
	合計	109	12	33	41	61	41	60	13

問25　あなたは、家庭教育の支援のために、何が必要だと思いますか。（○は3つまで）

		回答数	構成比
①	家庭教育に関する講座・講演・イベントなどの充実	122	11.8%
②	家庭教育に関する学習資料の作成・配布	63	6.1%
③	家庭教育に関する情報提供の充実	144	13.9%
④	家庭教育に関する身近な相談体制の充実	117	11.3%
⑤	テレビ・新聞などのマスメディアによる広報	54	5.2%
⑥	ＰＴＡ活動の充実	19	1.8%
⑦	さまざまな地域団体の活動の活性化	64	6.2%
⑧	保護者が家庭教育などについて情報交換や仲間づくりなどができる場作り	150	14.5%
⑨	地域の住民同士のつながり・ネットワークづくり	152	14.6%
⑩	その他	10	1.0%
⑪	わからない	92	8.9%
⑫	無回答	51	4.9%
	計	1038	100.0%



【考察】

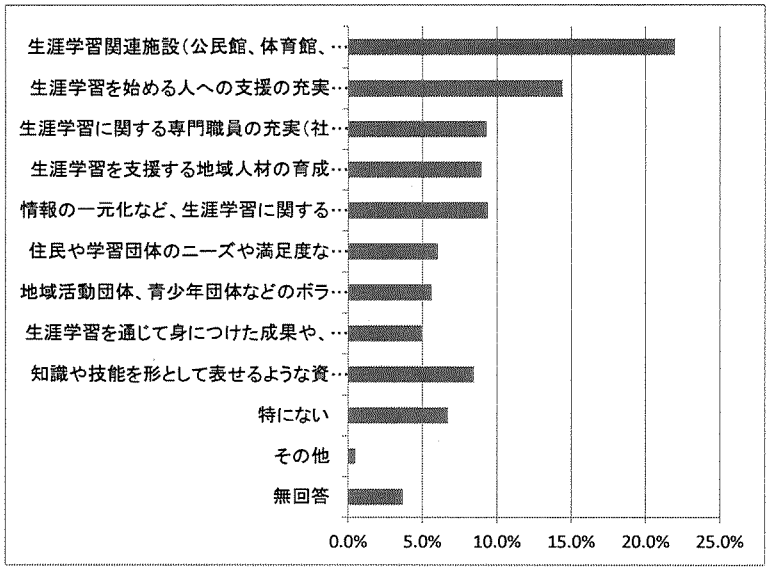
家庭教育の支援のため何が必要かについては、「地域の住民同士のつながり・ネットワークづくり」が最も多く、次に「保護者が家庭教育などについて情報交換や仲間づくりなどができる場作り」、３番目に「家庭教育に関する情報提供の充実」となっています。
家庭教育に関する情報や地域の方たちとのつながりの場の提供などが必要なことがうかがえます。

問25　あなたは、家庭教育の支援のために、何が必要だと思いますか。（○は3つまで）

属性	区分	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
性別	女性	69	34	76	67	27	9	27	89	69	4	41	22
	男性	44	24	64	43	25	9	33	53	75	5	46	24
	無回答	9	5	4	7	2	1	4	8	8	1	5	5
	合計	122	63	144	117	54	19	64	150	152	10	92	51
年齢	１０代	6	5	3	5	7	0	0	6	6	1	9	3
	２０代	11	3	17	8	7	0	2	16	11	3	9	7
	３０代	15	11	23	14	9	2	5	11	13	0	14	4
	４０代	21	10	23	12	6	3	7	21	16	3	13	6
	５０代	21	10	27	20	8	5	21	32	43	0	12	5
	６０代	27	12	36	42	10	6	17	47	42	2	17	13
	７０代以上	12	7	11	9	5	2	8	9	13	0	13	8
	無回答	9	5	4	7	2	1	4	8	8	1	5	5
	合計	122	63	144	117	54	19	64	150	152	10	92	51
職業	正規雇用者（正規の職員・従業者）	45	25	60	39	20	5	25	47	47	4	26	18
	非正規雇用者（パート・アルバイト）	18	12	18	17	4	5	3	28	22	1	14	5
	派遣社員、契約社員	3	1	3	4	1	1	1	2	6	1	4	1
	農林水産業（自営・家族従業者）	2	0	3	7	0	1	5	8	9	0	3	4
	商工・サービス業（自営・家族従業者）	0	1	4	3	1	0	4	4	7	0	5	2
	自由業	3	2	4	0	1	0	1	2	0	0	1	0
	家事従事者	14	0	14	9	5	3	5	17	14	1	6	0
	学生	8	5	6	6	8	0	1	10	13	1	10	5
	無職	14	12	24	22	11	2	13	23	21	1	14	11
	その他	6	0	4	3	1	1	2	1	5	0	4	0
	無回答	9	5	4	7	2	1	4	8	8	1	5	5
	合計	122	63	144	117	54	19	64	150	152	10	92	51

問26　今後、人々の「生涯学習」をもっとすすめていくために、市ではどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（○はいくつでも）

		回答数	構成比	前回調査
①	生涯学習関連施設（公民館、体育館、図書館など）におけるサービスの充実	262	22.0%	21.8%
②	生涯学習を始める人への支援の充実（サークル体験など）	172	14.4%	16.6%
③	生涯学習に関する専門職員の充実（社会教育主事、司書、学芸員、スポーツ指	111	9.3%	10.5%
④	生涯学習を支援する地域人材の育成（学習相談や学習機会のコーディネーター	107	9.0%	11.9%
⑤	情報の一元化など、生涯学習に関する情報提供の充実	112	9.4%	10.8%
⑥	住民や学習団体のニーズや満足度などの把握と施策への反映	72	6.0%	5.8%
⑦	地域活動団体、青少年団体などのボランティア活動の活性化や、活動の支援	67	5.6%	6.2%
⑧	生涯学習を通じて身につけた成果や、その成果を生かした活動に対する社会的	59	4.9%	3.8%
⑨	知識や技能を形として表せるような資格・検定などの充実	101	8.5%	7.7%
⑩	特にない	80	6.7%	4.3%
⑪	その他	6	0.5%	0.7%
⑫	無回答	44	3.7%	—
	計	1193	100.0%	



その他記述

・ネット、ｗｅｂでの講座開講、資格の授与。
・学習したことを生かせる環境の提供。
・外国人による外国語講座をボランティアでお願いします。
・スタンプラリーのように規定の数を貯めたら、景品があるなど。
・利用者目線で運営してほしい。
・イベント増やせば良いのでは。
・その予算を他にまわす。
・今のままで不都合はない。学ぶ人は学ぶし、学ばない人は何をやっても学ばない。

【考察】

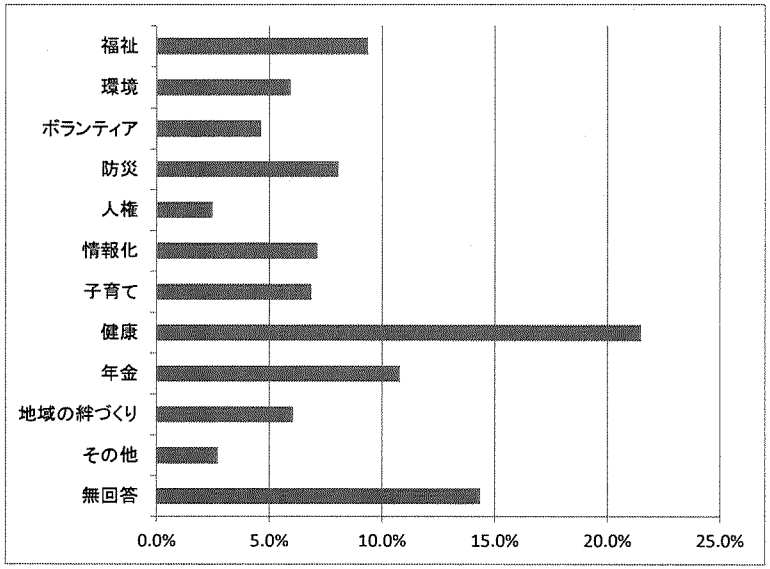
今後、「生涯学習」をすすめていくために力を入れることについては、「生涯学習関連施設（公民館、体育館、図書館など）におけるサービスの充実」が最も多く、次に「生涯学習を始める人への支援の充実」、３番目に「情報の一元化など、生涯学習に関する情報提供の充実」となっています。
前回のアンケートと同じ傾向となっており、施設のサービスの充実や生涯学習活動への支援の充実などが求められていることがうかがえます。

問26　今後、人々の「生涯学習」をもっとすすめていくために、市ではどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（○はいくつでも）

属性	区分	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
性別	女性	134	92	58	53	50	36	32	25	56	39	3	22
	男性	116	68	49	51	53	33	32	29	39	39	3	13
	無回答	12	12	4	3	9	3	3	5	6	2	0	9
	合計	262	172	111	107	112	72	67	59	101	80	6	44
年齢	１０代	20	9	6	3	5	5	8	10	10	6	0	2
	２０代	30	14	9	7	14	9	5	9	11	8	1	3
	３０代	37	17	17	9	18	12	7	10	18	7	1	1
	４０代	48	30	16	19	14	11	7	9	14	6	2	2
	５０代	47	26	21	23	23	11	9	6	19	18	1	2
	６０代	52	52	31	31	21	19	21	8	21	16	1	15
	７０代以上	16	12	7	12	8	2	7	2	2	17	0	10
	無回答	12	12	4	3	9	3	3	5	6	2	0	9
	合計	262	172	111	107	112	72	67	59	101	80	6	44
職業	正規雇用者（正規の職員・従業者）	109	56	47	40	44	30	22	21	36	20	4	4
	非正規雇用者（パート・アルバイト）	29	27	13	16	18	12	6	8	16	11	0	5
	派遣社員、契約社員	8	7	3	3	2	0	1	1	3	4	0	0
	農林水産業（自営・家族従業者）	3	5	3	3	1	3	3	2	5	4	0	5
	商工・サービス業（自営・家族従業者）	6	6	2	4	2	3	1	1	3	4	0	3
	自由業	2	6	2	0	2	2	0	0	0	0	0	0
	家事従事者	26	16	12	14	6	5	9	4	9	7	1	2
	学生	26	13	6	5	9	8	9	9	13	6	1	3
	無職	32	21	16	18	16	6	12	6	4	20	0	12
	その他	9	3	3	1	3	0	1	2	6	2	0	1
	無回答	12	12	4	3	9	3	3	5	6	2	0	9
	合計	262	172	111	107	112	72	67	59	101	80	6	44

問27　あなたが、学んでみたい講座は、どのような講座ですか。（○は2つまで）

		回答数	構成比	前回調査
①	福祉	79	9.4%	13.3%
②	環境	50	5.9%	11.6%
③	ボランティア	39	4.6%	7.3%
④	防災	68	8.1%	6.5%
⑤	人権	21	2.5%	2.3%
⑥	情報化	60	7.1%	10.2%
⑦	子育て	58	6.9%	4.7%
⑧	健康	181	21.5%	30.1%
⑨	年金	91	10.8%	9.7%
⑩	地域の絆づくり	51	6.1%	―
⑪	その他	23	2.7%	4.3%
⑫	無回答	121	14.4%	―
	計	842	100.0%	



その他記述

・地元産業をもっと小、中生に教える。〔特に食育の一環として、農林水産業、産物の流通などを〕
・医療事務関係。（複数回答有）
・気軽に始められる楽器の講習講座。
・美術。
・就活。
・園芸、野菜つくり。
・動物関係。
・手芸、編み物。
・ＰＣ操作。
・語学→観光客にむけた「おもてなし」（英語、中国語、韓国語）※あいさつ、道案内、ｅｔｃ
・空家→市運営の民泊へ（民泊、ボランティアの育成）
・専業主婦が働くにあたり、スムーズに仕事を行える様なもの。
・文化面、スポーツ面の講座。
・肥前小城の歴史。
・英会話。（複数回答有）
・他国の文化や料理。
・内容を深く掘り下げられるもの。
・教養を豊かにするもの。
・教育。（複数回答有）
・学ことはありません。全部あてはまりません。

【考察】

学んでみたい講座については、「健康」が最も多く、次に「年金」、３番目に「福祉」となっています。
前回のアンケートでは「健康」「福祉」「環境」の分野が多かったことに比べ、今回「年金」への関心が高まったことがうかがえます。
また、その他記述では、「医療事務関係」や「英会話」の意見が多くみられます。

問27　あなたが、学んでみたい講座は、どのような講座ですか。（○は2つまで）

属性	区分	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
性別	女性	50	22	17	24	12	27	33	103	48	21	12	56
	男性	25	27	20	41	9	31	22	68	38	26	11	52
	無回答	4	1	2	3	0	2	3	10	5	4	0	13
	合計	79	50	39	68	21	60	58	181	91	51	23	121
年齢	１０代	5	2	7	5	5	9	0	6	2	1	4	6
	２０代	3	5	3	8	2	8	15	8	3	3	5	12
	３０代	13	5	1	6	0	12	26	14	11	5	0	10
	４０代	7	6	6	10	3	10	11	19	11	3	3	19
	５０代	14	12	5	13	2	7	1	48	21	10	3	21
	６０代	24	16	13	17	5	7	2	52	27	20	4	27
	７０代以上	9	3	2	6	4	5	0	24	11	5	4	13
	無回答	4	1	2	3	0	2	3	10	5	4	0	13
	合計	79	50	39	68	21	60	58	181	91	51	23	121
職業	正規雇用者（正規の職員・従業者）	21	14	14	28	3	19	37	56	25	20	6	37
	非正規雇用者（パート・アルバイト）	18	6	4	8	2	5	8	22	18	5	1	18
	派遣社員、契約社員	4	2	0	0	0	5	1	9	4	0	0	4
	農林水産業（自営・家族従業者）	1	7	1	2	3	1	1	7	3	5	0	4
	商工・サービス業（自営・家族従業者）	1	3	2	4	1	0	2	5	2	2	2	4
	自由業	2	0	0	0	0	2	0	1	1	0	0	3
	家事従事者	8	4	2	3	0	4	3	21	9	7	2	8
	学生	4	6	7	8	6	10	1	8	2	2	5	9
	無職	16	6	6	11	6	8	1	37	21	4	6	17
	その他	0	1	1	1	0	4	1	5	1	2	1	4
	無回答	4	1	2	3	0	2	3	10	5	4	0	13
	合計	79	50	39	68	21	60	58	181	91	51	23	121

小城市生涯学習推進計画の策定に参画した社会教育委員の名簿

（五十音順、敬称略）

氏　　名	所属等
◎　小栁　容子	学識経験者
○　長﨑　兼治	学識経験者
伊東　スミエ	学識経験者
右近　貴臣	小城市 PTA
合瀬　由未子	学識経験者
大坪　正徳	学識経験者
岸川　敦則	小城市校長会
古賀　実千子	学識経験者
武冨　ちえ子	学識経験者
田中　慎也	小城市 PTA
槇原　靖宏	小城市校長会
眞子　雅允	学識経験者

◎:委員長、○：副委員長

小城市生涯学習推進計画
平成30年３月
小城市教育委員会
〒845-8511　小城市三日月町長神田2312番地2
ＴＥＬ0952-37-6132
ＦＡＸ0952-37-6167
Ｅ－Mail　syougaigakushuu@city.ogi.lg.jp